

参考資料

1 仙台市立七郷小学校「防災安全科」

※文部科学省指定研究開発学校（平成 25～28 年度）

- (1) 小学校学習指導要領「防災安全科」
- (2) 授業実践例

2 仙台版防災教育研究推進取組発表校 実践発表資料から（平成 28～令和 3 年度）

※令和 2 年度の研究推進取組校発表会は新型コロナウイルス感染症対策のため、令和 3 年度に延期して実施

- (1) 仙台市立高森東小学校 (H28)
- (2) 仙台市立上杉山中学校 (H28)
- (3) 仙台市立西山小学校 (H29)
- (4) 仙台市立南小泉中学校 (H29)
- (5) 仙台市立榴岡小学校 (H30)
- (6) 仙台市立中田中学校 (H30)
- (7) 仙台市立芦口小学校 (R1)
- (8) 仙台市立五橋中学校 (R1)
- (9) 仙台市立八乙女小学校 (R3)
- (10) 仙台市立鶴谷中学校 (R3)

3 単元配列表モデル

- (1) 小学校
- (2) 中学校

4 復興ソング

5 防災を含む安全に関する教育のイメージ ～教科等横断的な視点から教育課程を編成～

6 学習指導要領に基づいた各教科等における防災教育の内容と主な留意事項

7 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の活用

- (1) 「震災遺構仙台市立荒浜小学校」見学プランについて
- (2) 「震災遺構仙台市立荒浜小学校」周辺地図

8 防災教育に関する資料 リンク集

小学校学習指導要領 防災安全科

● 第 1 目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り，身の回りの危険を予測して，どのように行動すればよいかを判断し，自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに，他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。

● 第 2 各学年の目標及び内容

〔第 1 学年及び第 2 学年〕

1 目標

- (1) 身近な災害等の危険や助けの求め方を理解できるようにする。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気づき，どのように行動すればよいかを考えることができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わろうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震，津波，噴火，台風，集中豪雨，強風，竜巻，雷，大雪等)
ア) 地震や津波について知る。
イ) 大雨や強風，雷などについて知る。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
ア) 地震や津波による危険について知る。
イ) 大雨や強風，雷などによる危険について知る。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
ア) 地域に起こった災害を知る。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
ア) 地域の人々が協力して防災に取り組んでいることを知る。
イ) 地域の災害復旧・復興に関する取組を知る。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
ア) 危険から身を守る方法や避難の仕方を知る。
イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
ア) 住所や電話番号など，自分の情報の伝え方を知る。
イ) 家族の連絡先を知る。

- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 軽いけがの時は傷口を水洗いすることを知る。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。
- C 日常の備えに関すること
 - (1) 家庭での備えを理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを知る。
 - イ) 家庭では物資や食料に関して、どのような備えがあるかを知る。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
 - (2) 学校や地域での備えを理解する。
 - ア) 学校で備蓄や備えがあることを知る。
 - イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。
 - ウ) 地域には防災に役立つ設備があることを知る。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では、周りの人の指示をしっかりと聞き、落ち着いて行動する大切さを知る。
- D 危険予測・判断に関すること
 - (1) 危険を予測する。
 - ア) 通学路での災害等の危険を考える。
 - (2) 安全に行動するために適切に判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを考える。
 - イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを考える。
- E 支援者の基盤に関すること。
 - (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
 - ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。
 - イ) どんなときでも頑張る心を持って行動しようとする。
 - (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
 - ア) 地域の防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。
 - イ) 友達や周りの人に親切にしようとする。
 - (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 動植物の世話を通し、自然を大切にしようとする。
 - イ) 自然の不思議や美しさを感じ取ろうとする。
 - ウ) 生き物に優しくしようとする。
 - (4) 他者と関わりを持とうとする。
 - ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。
 - イ) 友達や近所の人たちと関わろうとする。
 - ウ) 自分の思いを相手に伝えようとする。

F 社会貢献に関すること

- (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) 人の役に立ちたいという気持ちを持って行動しようとする。
- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを家族に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 身の回りの人のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) ルールや決まりを守り、安全に生活しようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 災害等の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、身近に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(4)については、これから自分にはどんなことができるかを考えることができるようにする。
- (3) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び「C 日常の備えに関すること」の(2)については、地域の「こども110番の家・店」の利用と関連付けて取り扱うものとする。
- (4) 内容の「D 危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については、学校や通学路を中心に扱うものとする。

〔第3学年及び第4学年〕

1 目標

- (1) 地域で起こりやすい災害や過去の災害等を知り、日常の備えについて理解できるようにする。
- (2) 災害等による地域の危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 感謝の気持ちを持って地域の人たちと関わり、家庭や学校の安全のために役立とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴を理解する。
(地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
 - ア) 災害とは何かを理解する。
 - イ) 地震や津波の特徴を理解する。
 - ウ) 大雨や強風、雷などの特徴を理解する。

- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 地震や津波による被害を理解する。
 - イ) 大雨や強風，雷などによる被害を理解する。
 - (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 地域に伝わる災害の伝承を知る。
 - イ) 地域で起きた災害の被害の様子を理解する。
 - (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 関係機関による防災の取組を理解する。
 - イ) 関係機関による災害復旧や復興の取組を理解する。
- B 危険から身を守る方法に関すること
- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等に対応した身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - イ) 119番通報の仕方を理解する。
 - (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 家族と連絡を取り合う方法を理解する。
 - (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 軽いけがのときの止血方法を知る。
 - イ) AEDの設置場所を知る。
 - (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインと自分たちの生活とのつながりを理解する。
- C 日常の備えに関すること
- (1) 家庭での備蓄について理解する。
 - ア) 家庭での設備に関する備えを調べ，大切さを理解する。
 - イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ，大切さを理解する。
 - ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。
 - (2) 地域での備えについて理解する。
 - ア) 学校の備蓄について調べ，災害時への備えを理解する。
 - イ) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などの役割を理解する。
 - ウ) 地域にある防災に役立つ設備について知り，地域の防災を理解する。
 - エ) 避難訓練や防災訓練では，話をよく聞いて，指示に従ったり安全に行動したりする大切さを知る。
- D 危険予測・判断に関すること
- (1) 危険を予測する。
 - ア) 学校や家庭，地域での災害等の危険を考える。
 - (2) 安全に行動するために適切に判断する。
 - ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。
 - イ) 学校や家庭，地域での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを自分で考える。

E 支援者の基盤に関すること

- (1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。
 - ア) 周りの様子や指示に応じて行動しようとする。
 - イ) 困ったときにも投げ出さない心を持って行動しようとする。
- (2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを持って行動しようとする。
 - イ) 友達や下級生に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。
- (3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。
 - ア) 生命のつながりを感じて、自然や動植物を大切にしようとする。
 - イ) 自然の美しさやすばらしさを感じ取ろうとする。
 - ウ) 命あるものを大切にしようとする。
- (4) 他者と関わりを持とうとする。
 - ア) お世話になっている地域の方に自分から挨拶をしようとする。
 - イ) 地域の行事などに参加し、身の回りの人とつながろうとする。
 - ウ) 相手と互いに思いを伝え合おうとする。

F 社会貢献に関すること

- (1) 被災者を支援しようとする。
 - ア) ボランティア活動について知り、自分たちにできることを考えようとする。
- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを家族や地域に伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 家族や地域のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) 防災の意識を持って安全・安心な生活をしようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、その地域に起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)のイの119番通報については、社会科と関連付けて4学年で取り扱うものとする。
- (3) 内容の「F社会貢献に関すること」の(3)のアについては、支援と関連付けて、復旧・復興を目指して地域で活動しているボランティアの団体を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「F社会貢献に関すること」の(1)のアについては、道徳の内容とより深く関連付けて取り扱うものとする。

〔第5学年及び第6学年〕

1 目標

- (1) 災害等の原因や仕組み、情報の特性、被害を軽減し、災害後に役立つもの等について理解できるようにする。
- (2) 災害等に関する知識や情報、状況等を基に危険を予測し、どのように行動すればよいかを判断することができるようにする。
- (3) 下級生の安全に気配りし、地域の安全のために役立つとするとともに、将来に夢や希望を持とうとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害の種類や特徴等を理解する。
(地震、津波、噴火、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪等)
 - ア) 災害の種類や特性を理解する。
 - イ) 災害の原因（自然と社会）を理解する。
- (2) 災害の発生メカニズムや災害による被害等を理解する。
 - ア) 災害の特性と発生メカニズムを理解する。
(5年で気象、6年で地震と津波)
 - イ) 災害による被害を理解する。
- (3) 地域で起きた過去の災害と伝承を理解する。
 - ア) 東日本大震災や過去の災害の伝承を理解する。
 - イ) 東日本大震災や過去の災害の被害の様子を理解する。
- (4) 災害防止や復旧・復興に関する取組を理解する。
 - ア) 国や自治体による防災に関する取組を理解する。
 - イ) 国や自治体による災害復旧や復興の取組を理解する。

B 危険から命を守る方法に関すること

- (1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。
 - ア) 災害等やその場の状況に応じた身の守り方や避難の仕方を理解する。
- (2) 情報を生かす方法を理解する。
 - ア) 災害時の心の変化と行動を理解する。
 - イ) 災害時に必要な情報と入手の仕方を理解する。
- (3) 応急手当の方法を理解する。
 - ア) 出血や打撲をしたときの簡単な手当の仕方を理解する。
 - イ) A E Dの機能を理解する。
- (4) 生き抜く知恵と技能について理解する。
 - ア) ライフラインが止まったときの対処法を理解する。

C 日常の備えに関すること

(1) 家庭での備えを理解する。

- ア) 家庭での設備に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。
- イ) 家庭での物資や食料に関する備えを調べ、工夫や必要性を理解する。
- ウ) 災害時の家庭内での約束事や役割分担などを理解する。

(2) 学校や地域での備えを理解する。

- ア) 学校の備蓄を調べ、工夫や災害時への備えを理解する。
- イ) 地域の防災に関する取組を理解する。
- ウ) 地域にある防災に役立つ設備について調べ、地域の防災を理解する。
- エ) 避難訓練や防災訓練では、危険を予測し、安全を確保するために行動する大切さを理解する。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

- ア) 災害の種類による危険を考える。
- イ) 場所や時刻など、様々な状況を想定して危険を予測する。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

- ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。
- イ) 場所や時刻など、様々な状況による危険を避けるためにどう行動するかを自分で判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち、冷静に行動しようとする。

- ア) 状況に応じて落ち着いて行動しようとする。
- イ) 困難に直面しても負けない強い心を持って行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

- ア) お世話になっている方々に感謝の気持ちを持って行動しようとする。
- イ) 困っている人に対して思いやりの気持ちを持ち、親切にしようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

- ア) 自然の美しさや偉大さを感じ、自然を守っていこうとする。
- イ) 畏敬の念を持って自然の力を感じようとする。
- ウ) 命を見つめ、自他の生命を尊重しようとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

- ア) お世話になっている方々に進んで挨拶をしようとする。
- イ) 地域の行事などに参加し、地域とつながりを持とうとする。
- ウ) 思いを伝え合い、互いの良さを認めながらコミュニケーションを取ろうとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

- ア) 他地域で災害が起きたとき、被災した人たちのために自分たちにできることを考えて、支援しようとする。

- (2) 教訓を伝えようとする。
 - ア) 学校で学んだ防災のことを教訓として伝えようとする。
- (3) 家庭や地域に役立とうとする。
 - ア) 地域のために役立とうとする。
- (4) 夢や希望を持とうとする。
 - ア) 防災を通して自分の生き方やこれからの社会に夢や希望を持って生きようとする。

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については、地震、津波、台風、集中豪雨、強風、竜巻、雷、大雪から、日本で起こり得る内容を選択して取り扱うものとする。
- (2) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(2)のイについては、社会科の情報手段の特徴と関連付けて取り扱うものとする。
- (3) 内容の「B 危険から命を守る方法に関すること」の(3)のアについては、児童の実態に応じて骨折ややけどなどのけがも関連付けて取り扱うものとする。
- (4) 内容の「C 日常の備えに関すること」の(1)のアについては、救急箱についても関連付けて取り扱うものとする。
- (5) 内容の「F 社会貢献に関すること」の(4)のアについては、被災体験やそれらから学んだ教訓について、次世代にどう伝え、未来にどう生かしていくかを関連付けて取り扱うものとする。

〔特別支援〕

1 目標

- (1) 地震や大雨、強風、雷など、生活の中には危険が潜んでいることを理解できるようになる。
- (2) 災害等による身の回りの危険に気付き、身を守ろうとする。
- (3) 感謝の気持ちを持って身近な人たちと関わり、自分にできることをしようとする態度を育てる。

2 内容

A 災害等の理解に関すること

- (1) 災害について知る。
 - ア) 地震や津波について知る。
 - イ) 大雨や強風、雷などについて知る。
- (2) 災害による危険について知る。
 - ア) 地震や津波による危険について知る。
 - イ) 大雨や強風、雷などによる危険について知る。

B 危険から身を守る方法に関すること

(1) 身の守り方や避難の仕方を理解する。

ア) 地震や雷などから身を守る方法や避難の仕方を知る。

イ) 大人に助けを呼ぶ方法を知る。

ウ) 防災ノート（自分の住所，電話番号，家族の連絡先，集合場所）を家族とともに作り，使えるようになる。

(4) 生き抜く知恵と技能について理解する。

ア) 水・電気・ガスの大切さを知る。

C 日常の備えに関すること

(1) 家庭での備えを理解する。

ア) 家庭での備えがあることを知る。

(2) 学校や地域での備えを理解する。

ア) 地域の避難場所や「こども110番の家・店」などを知る。

D 危険予測・判断に関すること

(1) 危険を予測する。

ア) 学校や家の周りにある災害等の危険を知る。

(2) 安全に行動するために適切に判断する。

ア) 災害等による危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

イ) 通学路での災害等の危険を避けるためにどう行動するかを判断する。

E 支援者の基盤に関すること

(1) 強い心を持ち，冷静に行動しようとする。

ア) 大人の指示をよく聞いて行動しようとする。

(2) 感謝や思いやりの心を持って行動しようとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを持って行動しようとする。

(3) 自然を愛護して生命を尊重しようとする。

ア) 自然や命のすばらしさを感じながら飼育・栽培活動に取り組もうとする。

(4) 他者と関わりを持とうとする。

ア) 防災や安全のために見守ってくれる人たちに自分から挨拶をしようとする。

F 社会貢献に関すること

(1) 被災者を支援しようとする。

ア) 学校で学んだ防災のことを，家族や友達に伝えようとする。

(4) 夢や希望を持とうとする。

ア) 安心して，希望を持って生活しようとする。

3 内容の取扱い

(1) 内容の「B危険から命を守る方法に関すること」の(1)及び(2)については，防災ノートを取り扱うものとする。

(2) 内容の「D危険予測・判断に関すること」の(1)及び(2)については，学校や通学路を中心に扱うものとする。

● 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 防災安全科と各教科，領域の関連を考慮して適切に指導し，学習したことが相互に密接に結び付くようにすること。また，関連がある内容については防災安全科と各教科，領域でも指導を行うことで，より指導の効果を高めるように工夫すること。
- (2) 防災や復旧・復興のために活動しているボランティア団体や地域の方々などと連携，協力を図りながら，それらを積極的に活用するよう配慮すること。
- (3) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき，道德の時間などとの関連を考慮しながら，第3章道德の第2に示す内容について，防災安全科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 心のケアの観点から取り扱う内容については被災者の心情に配慮しながら，児童にとって心理的な負担の少ないものを取り上げるなど，十分に留意すること。
- (2) 内容の「A 災害の理解に関すること」の(1)及び(2)については災害の種類や特徴と発生メカニズムを関連付けて取り扱うこと。
- (3) 各学年の内容については，地域や児童の実態に応じて，繰り返し指導したり，防災安全科としては取り上げず，関連の深い他教科，領域を通して指導したりするなど，弾力的に取り扱うこと。

《A 災害等の理解に関する取扱い》

取り扱う災害は，第1，2学年では身近な災害，第3，4学年では地域で起こり得る災害，第5，6学年では日本の災害とする。

A(1)は，全学年ともに扱う。

A(2)，A(3)，A(4)は，第4，5，6学年でそれぞれ1，2項目を選択して扱う。

《B 命を守る方法に関する取扱い》

Bは，全学年ともに，B(1)，B(2)，B(3)，B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。

《C 備えに関する取扱い》

C(1)またはC(2)は，全学年ともに，それぞれ1項目を選択して扱う。

《D 予測・判断に関する取扱い》

D(1)とD(2)は，全学年ともに扱う。他の項目と関連して扱う。

《E 支援者基盤に関する取扱い》

Eは，主に第1，2，3学年で扱う。

E(1)とE(3)は，教科・領域で扱い，関連を図る。

《F 社会貢献に関する取扱い》

Fは，主に第4，5，6学年で扱う。

F(1)，F(2)，F(3)，F(4)から1，2項目を選択して扱う。

授業実践例	防災安全科
小学校低学年	E(1)(2)

「あんしん あんぜん がっこうせいかつ」

1 目標

校内で大きな地震が起きたとき、身を守るためにはどのように行動したらよいか考えることができるようにする。

2 単元計画（5時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	<p>○東日本大震災について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で起きた大きな自然災害について知る。 ・当時の体験談を聞くことで、被害の大きさや生活の様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度の 6 年生が作文を読んでいるビデオ ・仙台版防災教育副読本 P.4～7 	<p>東日本大震災の当時の様子について知ることができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
2	<p>○地震の揺れを体験しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」に乗車し、大きな地震の揺れを体験する。 ・体験したことを基に、感じたことを発表し、共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」 	<p>起震車で大きな地震の揺れを体験し、身を守る必要性を理解することができたか。</p> <p>【知識・理解】</p>
3	<p>○教室にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 ・地震が起きたとき、 ①「落ちてくるかも、倒れてくるかも、移動してくるかも」しれない場所を見付ける。 ②「落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」場所を探す。 ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車「ぐらら」を体験している様子を撮影したビデオ 	<p>教室で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
4	<p>○体育館にいるとき、地震が起こったら。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館で地震が起きたとき、どんな危険があるか考える。 ・身を守るものが近くにない場合、頭を守る姿勢をとることが大切であることを知る。 ・実際にどのように行動したらよいか考え、行動してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館の中の写真 ・「だんごむしポーズ」の絵 	<p>体育館で地震に遭った際、危険を避けるためにどのように行動したらよいか考えることができたか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

5 (本時)	○図書室にいるとき、地震が起こったら。 ・休み時間、図書室にいたときに、地震が起きたらどんな危険があるか話し合う。 ・地震の後、避難するときに友達が動けなくなっていたらどのように行動するか考える。	・図書室の中の写真	大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。 <p style="text-align: right;">【態度】</p>
-----------	--	-----------	--

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えることができるようにする。(指導事項：友達や周りの人に親切にしようとする)

(2) 防災教育の視点

自分の身の安全を確保する自助に加えて、友達を助けたいと思って自分にできることを考えようとする共助の素地を養う。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

小学校低学年の児童においても、周りの友達がけがをしたときに「大丈夫？」と声を掛けたり教師を呼びに行ったりするなど、友達のことを思いやる気持ちと行動が見られる。しかし、避難訓練などの際に、周りの人のことを考える行動までは見られない。

(2) 指導事項の概要

本単元では、E(1)「強い心と冷静な行動」、(2)「感謝や思いやりの心」を取り扱う。災害時、まずは自分の身の安全を確保することが何よりも大切である。しかし、それは我先に逃げるとか友達を見捨てるとかではない。低学年の児童においても、地震発生時の状況を把握し、自分の身を第一に考えつつ、周りの人のことも考えることができるようにする。

(3) 指導の方向

地震が起きたときの身の守り方を学習した後に行う。休み時間に大きな地震が発生して避難する際、友達が動けなくなっている場面を想定する。「自分だったらどうするか」を考えさせ、様々な意見を共有することで「周りの人も大切にしたい」という気持ちに気付かせていく。さらに、自分の身も守らなければならない状況の中で、周りの人のために自分にできる行動とはどのようなものなのか考えを深めさせ、共助の素地を育てていきたい。

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 休み時間、図書室で地震が起きたときの危険と身の守り方を考える。 ・本が落ちたり本棚が倒れてきたりするかもしれないから、本棚から離れる。 ・頭に物がぶつからないように、机の下に隠れる。	・仙台版防災教育副読本 P.7 (震災時の図書室の写真), P.31 (第4章1「身のまもり方を考えよう」) ・図書室で起こり得る危険に気付かせ、回避する行動を考えられるようにする。

	<p>2 学習課題を捉える。</p> <p>校庭に避難することになったが、友達が動けなくなっていた。自分ならどうするか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怖くて動けなくなってしまったのかな。 ・地震のときにけがをしてしまったのかも。 ・倒れてきた本棚に挟まったのかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は危険を回避することができたが、「友達がけがをして動けなくなっている」という新たな条件を提示して、学習課題につなげていく。また、「先生が近くにいないこと」や「すぐに避難するよう放送で指示があったこと」などの状況もつかませる。
展開	<p>3 自分ならどうするか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に避難したい。 ・声を掛けてあげれば、怖くなくなるかもしれない。 ・自分も怖いし、避難しなければならない。どうしよう。 <p>4 考えを発表して共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に行こう。」と言って手をつないで避難したい。 ・余震が来るかもしれないし、怖くて何もできないかもしれない。 ・自分では助けられないかもしれないから、先生を呼んで来て助けてもらう。 ・「大丈夫だよ。」と声を掛けたら安心するかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてそうなの」と問い、友達を思っでの行動であることに気付かせる。 ・「助けたいけど自分の身も守らない」という発言を取り上げ、状況によっては自分ではどうすることもできないことに気付かせる。 <p>〈評価〉大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしていたか。 (発表, ワークシート)</p>
終末	<p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことも友達のこと大切になりたい。 ・周りの人も助けられるようにもっと勉強したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の命も大切にできるかもしれないという思いを持たせたい。

6 板書計画

<p>こうていに ひなんすることになったが、ともだちが うごけなくなっていた。じぶんならどうするか かんがえよう。</p>	<p>あんしんするように、こえをかけてあげる。</p>
<p>こわい！ どうしよう</p>	<p>てをつないで いっしょににげる。</p>
<p>動けなくなっている児童の挿絵</p>	<p>せんせいを よびにいってくる。</p>
<p>動ける児童の挿絵</p>	<p>じぶんもきけんだし、どうしよう…</p>

7 評価

大きな地震が起きて避難するときに、周りの人のことを考えようとしている。

授業実践例	防災安全科
小学校高学年	A(1), B(1), D(1)(2)

「学ぼう！わたしたちの生活と大雨」

1 目標

大雨被害について理解し、身の安全を確保する方法について考え、自分の家庭でも生かすことができるようにする。

2 単元計画（4時間扱い）

時	主な学習活動	資料	評価計画
1	○起こり得る気象災害を考えよう。 ・どんな気象災害があるかを挙げ、気象によって引き起こされる災害を確認する。 ・映像を視聴して、大雨や雷、竜巻の恐ろしさを知る。	・みやぎ水害記録(昭和61年8月洪水) ・映像資料「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！・被害編」	気象災害の恐ろしさを知ることができたか。 【知識・理解】
2	○大雨に関する気象用語を調べよう。 ・雨の強さを表す用語 （例）30～50mm/h（激しい雨） →バケツをひっくり返したように降る ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報 ・災害情報：避難準備情報，避難勧告，避難指示	・新聞記事（平成28年8月30日の大雨被害） ・「雨と風」（気象庁リーフレット）	大雨に関する気象用語を理解できたか。 【知識・理解】
3 （本時）	○大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。 ・大雨が降ってくるという状況を想定し、災害に遭わないためにどのタイミングでどのように行動するかを理由も一緒に考える。 ・自分の考えを気象予報士に確認してもらい、講評を受ける。 ・大雨時の行動にどのような危険があるのか、またどのような心構えを持つ必要があるのかを知る。	・大雨ワークショップ用パワーポイント ・大雨ワークショップ用ハザードマップ ・ゲストティーチャー：気象予報士	大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。 【思考・判断・表現】
4	○大雨被害から身の安全を確保するための行動を家族と話し合おう。 ・大雨被害から身を守るためには、日頃からの心構えや適切な行動の選択が必要であることを振り返る。 ・七郷学区で大雨が発生したとき取るべき行動を家族と話し合う計画を立てる。	・仙台市内水ハザードマップ（若林区版） ・七郷小学校学区地図	大雨被害から自分や家族の身の安全を確保するために行動しようという思いを持ったか。 【態度】

3 本時の授業について

(1) 防災教育のねらい

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えることができるようにする。(指導事項：様々な状況による危険を避けるためにどのように行動するかを自分で判断する。)

(2) 防災教育の視点

気象災害から身の安全を確保する方法を考えることが自助、家族構成による避難の仕方を考えることが共助につながる。

4 授業プランの作成に当たって

(1) 児童の実態

気象そのものへの関心はあるものの、大雨を地震や津波のように大きな災害をもたらすものとして意識していない。気象情報の正確な理解はなされておらず、避難の仕方といった大雨被害から身の安全を確保するための行動を考える機会も少ない。

(2) 指導事項の概要

本単元では、指導事項A(1)「災害の種類や特徴」の中の気象災害を取り上げ、B(1)「身の守り方や避難の仕方」、D(1)「危険の予測」、(2)「安全のための判断」を取り扱う。毎年、台風や集中豪雨などによる気象災害が日本各地で起きている。大雨被害の特徴や恐ろしさをつかませ、それが自分たちの生活する地域でも起こり得るものだという認識を高めるとともに、身の安全を確保するための行動を考えられるようにする。

(3) 指導の方向

台風や集中豪雨など、大雨被害の特徴や恐ろしさを過去の資料等から理解できるようにしていく。ここでは、気象情報や災害情報などを理科・社会の学習内容と関連を図りながら取り扱う。さらに、架空の町に台風が接近しているという設定で、避難情報やハザードマップなどを参考にしながら、身の安全を確保するための行動を考えさせたい。(参考：気象庁主催の「大雨ワークショップ」)

5 授業の流れ

段階	学習活動	指導のポイント
導入	1 理科や社会の既習内容を確認する。 ・気象情報：注意報，警報，特別警報，土砂災害警戒情報 ・災害情報：避難準備情報，避難勧告，避難指示 2 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。</div>	・気象情報や災害情報で使われている用語は、災害発生のリスクを段階的に伝えていることを確認する。 ・大雨被害から命を守るためには、適切な判断と避難が必要であることに気付かせ、学習課題につなげる。

<p>展開</p>	<p>〈設定と条件〉 日時：10月5日13時～6日13時 場所：地点B（斜面の近く） 住居：木造3階アパートの1階に在住 家族：父，母，私，祖父（歩行困難），車有り</p> <p>3 どのように行動するか考える。 ○どのタイミングで，どんな行動をするか。なぜか。 ・ハザードマップで浸水しそうな所からなるべく離れた道を通るようにする。 ・18時30分の土砂災害警戒情報を待っていたら道が混むかもしれない。もっと早く家を出る。 ・持ち物のことも考えて，準備した方がよいのではないかな。 ・3階建ての家だから上の階に避難できるかもしれない。</p> <p>4 考えた行動を発表し，共有する。 ・少し遠回りにはなるけど，浸水しそうな場所から離れた道路を通って避難場所に向かう。 ・遠回りするなら，18時30分の出発だと渋滞に巻き込まれるかもしれない。だから大雨警報の段階で出発したほうが良い。 ・足の悪い祖父だけでも先に車に乗せて，避難所に向かったら安心ではないかな。 ・足の悪い祖父もいるので，垂直避難をしたら良いと思う。 ・土砂災害が起きそうな場所で木造の家だし，上の階に避難するのはむしろ危険なのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート（ハザードマップ）を配付し，自分ならどのように行動するのかを記入させていく。自分の考えを書かせる際には，なぜその行動が身の安全を確保することにつながると思ったのか，根拠を明確にするように声掛けしていく。 根拠を合わせて発表させていく。一つの考えに対して，似たような考えを持った児童にも問い掛けながら，全体で考えを深めさせていく。 上の階に避難する（垂直避難）考えが出た際は，今回の状況では必ずしも安全とは言いきれないことを考えさせるようにする。 友達の考えを聞いて「なるほど」と思ったことや考えが変わったことなどを発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈評価〉大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えていたか。 （発表，ワークシート）</p> </div>
<p>終末</p>	<p>5 学習を振り返る。 ・「命を守る四つのポイント」を確認する。 ①早めの避難を心掛ける。 ②高齢者や小さい子供，けが人への配慮をする。 ③住んでいる場所によって注意することが変わる。 ④避難しないという選択もある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 気象予報士が考える「命を守る四つのポイント」を示し，本時で自分たちが考えた行動と照らし合わせてみる。

6 板書計画

<p>〈学習課題〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ハザード マップ</p> </div> <p>〈設定と条件〉 日時 場所 住居 家族</p>	<p>みんなが 考えた行動</p> <ul style="list-style-type: none"> 警報で避難 祖父は先に避難 浸水に注意 上の階へ避難 	<p>命を守る 四つのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ①早めの避難 ②人への配慮 ③住む場所への配慮 ④避難をしない選択
---	---	--

7 評価

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えている。

8 ワークシート

〈学習課題〉

大雨被害から身の安全を確保するための行動を考えよう。

〈ハザードマップ〉

※気象庁HP「大雨ワークショップ」よりダウンロード

〈設定と条件〉

日時：10月5日13:00～6日13:00

場所：地点B（斜面の近く）

住居：木造3階アパートの1階に在住

家族：父，母，私，祖父（歩行困難） 車有り

〈自分が考えた行動〉

いつ・どんな行動を？

なぜ？

〈「なるほど」と思ったことや考えが変わったこと〉

仙台市立高森東小学校 第6学年

1 学校・地域の実態について

震災の被害がほとんどなく、水道や電気の面でも苦勞が少なかった地域である。地域では、避難所開設訓練を毎年行い、年々改善を加えている。その防災訓練において、小中学生の希望者が“すこボラ隊”として活躍している。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- 【共助】 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- 【当たり前の指導を、年間通して、どのクラスでも、確実に、行う】
- ① 横断的、全教育活動で行う防災教育
- ② 協働型学校評価目標と関連付けた防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- 【自助】 集団下校や避難訓練時の様子から、冷静に判断し、行動できる児童が多くなっていることがうかがえる。(緊急放送に対する適切な反応。休み時間に児童だけでも正しい行動。)
- 【共助】 高森地域全体が、上学年は下学年の面倒を見ることが当たり前の雰囲気になりつつある。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 普段の授業を防災の観点でつなぐ

本校では、学校行事などで取り組む避難訓練が年3回、集団下校訓練が2回、引渡訓練が1回実施されている(以後、学行等)。学行等の際に重視しているのが、事前と事後の指導である。例えば、6月の“地震に対する避難訓練”を核として、6年生は、道徳の時間において自他のいのちの重さについて考え、訓練直前には学活「避難訓練のめあてを立てよう」で具体を確認する。訓練後には、朝の活動「たてわりショート」において、低学年と遊び、その後、「もしこのとき地震があったらどうする。」と担任が投げかけ、実際の生活と結び付ける。



2 朝のショートタイム“防災学習”で確実に指導

学行等の事前、事後指導に欠かせないのが朝のショートタイム“防災学習”である。学行等の前・後の木曜日(学行等がないときは3週に一度程度)に位置付けられており、全校で・確実に・繰り返し防災について学習する。防災学習では、防災教育副読本も使用し、必要な知識や技能、心構え等を確認している。6年生になると副読本の同じ所を見ることもあるが、いのちに関する大切なことととらえ、繰り返し学習している。

3 共助は活動と生活の中で育む

本校の子供たちを見ていると感心することがある。それは、6年生が何気ない優しい言動を日頃から見せていることである。

たてわり活動では、低学年の手を取り、一緒に遊んだり、鶴を折ったりする姿があらこちらで見ることができた。高森東地区防災訓練では、「自分たちでできるのは低学年のお世話」と、進んで幼稚園～低学年に本を読んであげたり、遊びの相手をしたりする“すこボラ隊”の姿があった。そこに、いざという時にしっかり低学年の面倒を見て、地域の一員として働く姿が見て取れる。

特別のことではなく、当たり前のことを、全員で、確実に指導する。それが本校の防災教育である。



	知識		技能	態度		行事等	
	教科	生活・総合	特別活動	道徳			
4月			・たてわり活動ロング		◆その向こうに(1章③) ・身近な集団 ・節度ある生活態度	・避難訓練(経路確認) ・家庭訪問	
5月	(体) 病気の予防	◆(学) 大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)		・たてわり活動ショート		・交通安全教室	
6月	(国) 新聞の投書を読んで意見を書こう (理) 生き物のくらしと環境		◆家族防災会議を開こう(4章④) ・修学旅行・自主研修	・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・節度ある生活態度 ・生命尊重	・避難訓練(地震) ・修学旅行 ・集団下校訓練 ・スチューデントシティ
7・8月			◆チャレンジ!子ども防災モニター(4章⑤)	・たてわり活動ショート	・夏休みの生活 ・災害時の家族の約束	・家族愛	・高森東夏祭り ・復興サミット ・高東オリンピック ・救命講習
9月	(理) 大地のつくり (理) 変わり続ける大地	◆地震を乗り越えようとした先人の知恵(4章⑨)		(体) 着衣水泳 ・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト	・節度ある生活態度	
10月	◆(理) 地震のメカニズムを知ろう(3章①) (国) 町の未来をえがこう				・絆プロジェクト	・郷土愛	・高森東地区防災訓練 ・集団下校訓練
11月				・たてわり活動ショート	・避難訓練事前指導	・生命の尊重	・避難訓練(火災) ・故郷復興プロジェクト
12月	◆(社) 人々をつなげる活動(5章②) (社) 震災復興の願いを実現する政治			・たてわり活動ショート	◆未来へつなぐ(2章③) ・冬休みの生活		
1月	(家) わたしたちの生活と地域			・たてわり活動ショート	・絆プロジェクト		
2月	◆(社) つながる～世界の国々と～(5章①) (社) 世界の中の日本			・たてわり活動ショート			
3月		◆(学) 防災知識をチェックしよう(6章①) ◆(学) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)		・たてわり活動ロング	・故郷復興プロジェクト	・生命の尊重	・故郷復興プロジェクト

2-(2) 生徒会活動等を核にして実践する防災教育

仙台市立上杉山中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

仙台市中心部に位置し、高層マンションが建ち並び、通勤族の家庭も多い。古くから居住している方々を中心に活発な町内会活動が行われている。仙台市の地域防災計画に基づき協議を重ね「上杉地区 避難所開設マニュアル」が完成した。今後、地域と連携した防災活動を推進していく計画である。

2 平成28年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒の育成。
- ボランティア活動を通して災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒の育成。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- 生徒の地区別グループを組織化し、自主的に安全確保のできる生徒を育てる。
- JRC活動をはじめとしたボランティア活動の充実により、共助の力を育てる。

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

自然災害の予兆に敏感に意識を働かせ、このような場合はどうしたらよいかを口にする生徒が増えた。地域の一員としての自覚を持ち、環境美化への意識を強く持ったり、地域行事などへ進んで参加したりする生徒が増えた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

1 「急な大雨や雷から身を守ろう」(学級活動)の授業実践

本校は学校のすぐ側に梅田川、学区内及び近郊に地下鉄駅が3駅あるなど、積乱雲の急激な発達によるゲリラ豪雨時に被害が警戒される地域にある。また、本校北側には仙台市の土砂災害危険箇所指定される斜面があり、本校が指定避難所となっている。積乱雲がもたらす大雨や落雷などの自然災害は、本校生徒が直面する可能性が極めて高いものであると考えられる。これらの自然災害によって生徒が被害を受けることを防ぐためには、天候急変の兆しにいち早く気づき、安全を確保するための適切な対処法について学ぶことが重要であると考え、気象庁編「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」DVD利用を活用した授業実践を1学年にて行った。授業の概要は以下のとおりである。



- (1)DVD視聴後、登場人物の判断や行動についてどこが間違っていたのかを考え、ワークシートに記入する。
- (2)生活班でグループを組み、意見を発表し合う。班の代表者が出された意見をまとめ、学級全体に発表する。
- (3)解決編を視聴し、積乱雲に伴う自然災害から身を守る方法をまとめ、発表する。
- (4)防災教育副読本 P48 を読み、災害心理についての理解を深める。

2 避難訓練時における集団下校訓練の実施

3 生徒会、JRC委員会を主体とした、地域清掃の定期的実施

【目標】 災害についての基礎的な知識を知り、学区内の危険箇所を把握し適切に避難できる技能を身に付ける。

防災対応力の構成要素		知識		技能	態度
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
5	校外学習 JRC地域清掃		絆を力に一步步 (2章①)	急な大雨や雷から身を守ろう	
6	■避難訓練 ■集団下校訓練 JRC地域清掃			自分を守る(4章②) 地区避難グループを知る	
7	JRC地域清掃				
9	大樹祭 JRC地域清掃	理科 3.11の地震を科学の目でとらえよう (3章②)			
10	職場訪問 JRC地域清掃		校外活動中の避難行動について		
11	★故郷復興プロジェクト① ◆避難訓練(火事) JRC地域清掃				地域の一員として (5章②)
12	JRC地域清掃	保体 心の健康を守るために (4章⑦)			
2	予餞式 JRC地域清掃				
3	卒業式 ★故郷復興プロジェクト②			防災知識をチェックしよう (6章①) 仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	

仙台市立西山小学校 第2学年

1 学校・地域の実態について

学校敷地の南側が崖になっており、土砂災害危険地域になっている。また崖の下は高野川が流れており、大雨の時は増水する危険がある。児童の半数以上は、その川に架かった橋を渡って登校している。高低差のある坂道が多い学区であり、利府街道を含む交通量の多い学区である。

2 平成29年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】災害に関する正しい知識や方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童

【共助】進んで他の人や地域の人と協力できる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・児童の実態を考慮した各教科と防災教育を結びつけた実践
- ・自らの考えを発信するための防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・各教科の知識が、身を守るための知識として意識付けされてきた。
- ・実践授業を通して学校の避難訓練だけでは不十分だったことに気付き、身を守るための正しい知識を得ようとする態度が育ってきている。(自ら身を守る方法を発信していくことの大切さを学んでいた。)

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 仙台版防災教育副読本を活用した授業 「大きなじしんにそなえよう」(生活単元)の授業



仙台版防災教育副読本を中心に、紙芝居、教師の体験談、便利グッズの紹介も交えた『ぼうさいリュックを用意しよう』の授業を特別支援学級で実践した。具体的なグッズについて、マグネット板を用いた操作作業や非常時に必要な物の正しい知識と、自分にとって必要な物について自ら考え、友達と会話しながら学び合う授業を実践した。

(2) 校内研究(低学年)で「ぼうさいクイズ」アンケートを活用した授業実践

生活科「まちたんけん」の単元と組み合わせて、通学路の安全を考える授業を構想。そのための事前アンケートでの結果を基に授業実践を行った。

(3) 防災スキル

朝の時間に「防災スキル」の時間を設けている。季節の自然災害や学校行事に合わせて、副読本を中心に図書室の本の活用、各種パンフレット、紙芝居を用いて実践を進めている。写真は校外学習出発前の防災スキル風景。



防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	生活科 【自分たちの町をしよう 地域の人と関わろう】		特活	道徳	
	4		始業式 下校指導 交通安全教室 避難経路確認 避難訓練(地震・不審者)				
5	遠足 家庭訪問 運動会 スポーツテスト		どきどきわくわくまちたんけん ・まちのことはなそう ・まちたんけんにいこう ・まちの人となかよくなる		安全な登下校 D(1) スキル(2)		ぼくのわたしの 自まん大会1-(2) E(1)F(1)
6	引渡し訓練	【生活】ぼうさい マップをつくらう C(2)	う A C D E F			ひなんのときは おちついて E(4)F(1)	あいさつ2-(2) F(4)
7	西山まつり	【体育】水遊び B(1)	地域の人と自分から関わる ことができるように(コミュニケーション) 危険箇所確認		スキル(1)	楽しい夏休み BCDEF	かもうのクス4 -(5) EF
8	奉仕作業(たてわり PTA) 夏休み作品展		増水 河川洪水		スキル(1)		
9	避難訓練(業間地震) 避難訓練(Jアラート)	【国語】 ・かんじたことを 話したいな ・「ありがとう」を つたえよう B(1) E(4)	もつとなかよいまちたんけん ・まちのこともつと知ろう ・まちの人ともつとなかよくなる 方法を考えよう ・まちたんけんにいこう②		★ぼうさい リュックを用意 しようC(1)	避難訓練に むけて 大地震 火災 大雨	かぎのかかった 一輪車ごや 4-(1) E(4)F
10	校外学習 避難訓練(火災)		地域の人や町のことをくわしく知ることが できるようにしらべたことをしようか いしてみよう 危険箇所再確認 (交通 大地震)		スキル(2)		こうたのあさ1-(3) E
11	故郷復興プロ 学芸会 ボランティア感謝の会 ※地域防災訓練				火事の際は ★ぼうさいくん れんにさんかし ようスキル (3)	地域の 避難訓練に 参加しよう 大地震	ママとのやくそく3 -(1)E(3)
12		【生活】1年生 におしえよう E (4)	ジュニアまつりをひらこう 【異学年交流】 1年となかよくなる		★つなみにつ いてしろう A(2) スキル(2)	②楽しい冬休 みBCDEF	みんなときめたか らまもれたルール 4-(2) E(1)(2)
1	避難訓練(地震放送)	【国語】 ・おばあちゃんに 聞いたよ E	コミュニケーション (異学年)		②雪道を安全に D(1) スキル(1)	★つなみにつ いてしろう A(2)B(1)	学校のまわりには 4-(5) E(2)
2		【生活】1年生 におしえよう 異学年交流 E(4)	自分の成長とおうちの 人との関わりを知ろう あしたへジャンプ E F		スキル(2)	大地震 津波 3.11にむけて	せかいのどこか で3-(1) E(3)
3	6年生を送る会 震災の日3.11 卒業式		コミュニケーション (異学年)		・しんさいをふり かえろうA(4) E(2) スキル(1)	★あの日3.11 EF	空からのプレゼン ト3-(3) EF

★は「仙台版防災教育副読本」

仙台市立南小泉中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

学校所在地は海近くの平坦地であるが、海岸や大きな河川から離れており、東日本震災時で津波の到達はなかった。大雨による土砂崩れの恐れもなく、河川の洪水の恐れも少ない。地域には古くからの町並みが残り、大規模な建物も多くない。古くからの道路は狭く込み入っているため、避難時には支障が生じる。

2 平成29年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 災害に対する正しい知識を身につけ、冷静に判断して、臨機応変に活動できる。
- 【共助】 地域活動へ積極的に参加し、地域への貢献を通して自己有用感を持つことができる。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

保護者や地域と連携した防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・ボランティア登録者も多く、それ以外の生徒も地域のいろいろなボランティア活動に積極的に参加している。
- ・異年齢の地域の方々との活動を通し、うまくコミュニケーションをとる必要性の意識が高まり、人とどう関わったら良いかを考えるようになってきた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 親子参加型道徳授業参観「アサーショントレーニングを通して」

道徳 内容項目4-(4) 自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、集団生活の向上に努める相手との間に良い関係を築くためのやりとりや話し方を身につけるために、7月と9月に、3学年合同で保護者を変えアサーショントレーニングを実施した。3学年縦割りのグループを作り、保護者もグループに入れ生徒とともに参加した。3つの話し方について話し手と聞き手の両方を体験し、感じたことを他者と共有して、考えを深めた。



(2) 70周年記念式典において

同窓会長から過去に校舎が火災で焼失した南中の歴史の話をうかがい、防災についての意識を高めた。



(3) 地域合同防災訓練

本校の学区内には5カ所の指定避難所がある。早朝に地震が発生した設定で、いっとき避難所から指定避難所に避難する訓練を実施した。その後、本校を指定避難所としている生徒は、地域の方とともに避難所設営訓練を行った。それ以外の生徒は、消防署の指導で、バケツリレーとクロスロードの演習を行い、最後に全体で振り返り活動を行った。

(4) 卒業式での復興ソングの合唱

復興ソングの作詞者が本校の卒業生なので、毎年、卒業生の歌として復興ソングの合唱を行っている。

防災教育年間指導計画 第1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活		道徳	
4	入学式 対面式 保護者会	・保体…集団行動 ・家庭…わたしの 成長と家族 家族・家庭と地 域 ・技術…情報と私 たちの生活		・安全な登下校指導 ・学級連絡網の確認 ・部活動における安全指導 ・避難経路の確認		2-(2)優しい心	
5	校外学習 防犯教室 故郷復興プロジェク ト	・家庭…健康と食 生活		・連休の過ごし方 ・旅行的行事における事前指 導		1-(1)日々の心構え	
6	市中総体 第一回避難訓練	・家庭…健康と食 生活		・梅雨時の健康と安全		2-(6) 善意や支えへの感謝	
7	授業参観 合唱コンクール 故郷復興プロジェク ト	・家庭…食品の選 択と保存 ・保体…水泳	・地区顔合 わせ	・夏季休業中の過ごし方 ・南中祭へ向けての安全指導		4-(4) よりよい集団づくり	
8		・保体…水泳					
9	南中祭 70周年記念式典	・家庭…調料理を しよう ・社会…律令国家 での暮らし 権力をにぎった 貴族たち(副読 本使用)	・防災訓練 事前指導	・地域の一員として(副読本使 用)		4-(4) よりよい集団づくり 4-(2)公德を尊ぶ心 4-(2)好ましい世の中	
10	市新人大会 南中リンピック 地域合同防災訓練	・家庭…環境に配 慮した食生活	・地域総合 防災訓練	・部活動における安全指導 ・運動会へ向けての安全指導 ・私たちが立ち上がる(副読本 使用) ・災害時の避難方法 ・災害時の連絡方法		4-(1)きまりの意義	
11		・家庭…魚の調理 ・家庭…野菜の 調理					
12	授業参観 保護者会	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康(副読本) ・家庭…肉の調理 ・圧力		・冬休みの過ごし方について		4-(5)勤労の尊さ 4-(6) かけがえのない家族	
1						3-(1)生命の尊さ	
2		・理科…動き続け る大地 大地の変化を読 み取る(副読本)				2-(2)思いやり	
3	故郷復興プロジェク ト 卒業式 修業式	・保体…心身の機 能の発達と心の 健康		・春休みの過ごし方について			

1 学校・地域の実態について

JR 仙台駅，榴ヶ岡駅，地下鉄宮城野通駅に近く，交通至便の地域である。近くには，広大な敷地を有する榴岡公園があり，近年は高層マンションが増え，若年人口が増えてきている。榴岡地区町内会連合会並びに宮城野消防署原町出張所，榴岡地区日赤奉仕団の方々と協力しながら，毎年地域防災訓練を行っている。

2 平成30年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

災害に対する基礎的な正しい知識を身に付け，思いやりや優しさなどの感性を働かせながら，自分の生活をよりよいものにしていく。そのために，他者と協働したり，自分なりに試行錯誤したりして主体的に考え，表現，行動できるようにする。

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・教科等横断的な視点を重視した総合的な学習の時間を中心とする防災教育
- ・実社会や実生活とつながりのある具体的な活動や体験を含んだ防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果，児童生徒はどのように変容したか

- ・災害の恐ろしさを実感し，自分たちにできることや課題など，防災や減災についての関心が高まった。学んだことや思いを身近な人たちに伝えていきたいなど，主体的に考える姿や意欲的に学ぼうとする児童が多く見られるようになった。
- ・避難訓練などの意義を改めて理解し，目的意識を持って臨むようになってきた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

5 実践の具体 (第5学年)

(1) 密着！地域防災訓練って何？

6月：榴岡地区町内会連合会防災訓練

BFCの一員として訓練を補助する活動や，訓練に携わる消防署員と地域の方々へのインタビュー，訓練の様子を取材する活動を通して，災害が起きたときの対応について知る。



(2) 災害発生！さあ どうする？

10月：仙台青年会議所主催「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」ワークショッププログラムに沿って，「自助・共助・公助」について考える。地域防災ツール「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」を知る。



(3) その時 荒浜に何が起こったのか？

12月：「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」「津波避難タワー」見学 荒浜地区の被害の大きさ，復興や防災の取組を知る。



平成30年度 防災教育年間指導計画（5年）

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度		
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	
	4	1・2年交通教室 放送を聞く訓練 第1回避難訓練 (地震・授業時)		◎セイフティープロジェクト榴岡 ○テーマを知り、見直しを持つ	※登下校の安全 ※避難経路の確認 ※非常時下校体制の確認 ※避難訓練事前事後指導	○新しい学年を迎えて (その他の内容) ☆歩み出す力強く (1章②)
5	第2回避難訓練 (地震・休み時間対応) BFC開講式 引き渡し訓練 防犯訓練		○災害を知ろう	○野外活動時の災害発生時への対応		
6	避難訓練 (校舎内への避難) 防災教室 修学旅行 榴岡地区防災訓練	○けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方 (4章⑦:体育)	◎自然となかよし	○防災訓練の参加	☆災害時をくらすヒント(4章⑥) ※避難訓練事前事後指導	
7	野外活動 BFCチャレンジ教室 (地域行事への参加) 故郷復興プロジェクト(七夕飾り)				○楽しい夏休み (その他の内容)	☆希望の詩 ～「ない」～ (2章①)
8					○地域行事への参加	
9		○着衣水泳(体育) ○台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害 (3章③:理科)		○水害の恐ろしさ・メカニズム ○防災(水害から守るための取り組み)		○命のアサガオ 3-(1)生命尊重
10	放送を聞く訓練	○流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合って (4章⑧:体育)	◎東日本大震災の災害から学ぶ	○水害の恐ろしさ・メカニズム ○防災(水害から守るための取り組み)	○避難訓練事前事後指導	○2学期を迎えて (その他の内容)
11	第3回避難訓練 (火災・授業時)			○土砂災害に備える(砂防ダム)	※避難訓練事前事後指導 ☆立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト (2章④)	
12			○安心・安全な町づくり	○人災を起こさない工夫 ○荒浜小、津波タワー見学:語り部	○楽しい冬休み (その他の内容)	
1		○家庭科(裁縫)わくわくミシン		○地域の避難場所 ○裁縫		○生かされている “今”を大切に
2				○防災マップの作成	☆Heroes 2011 Japan (5章⑤)	○稲むらの火で命を救え 3-(1)生命の尊重 ○世界最弱のヒーロー、アンパンマン 4-(2)公正公平・正義
3	BFC開講式	○(国語)○自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会)○(音楽)	案内嬢作成	☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	○もうすぐ6年生 (希望や目標をもって生きる態度の育成)	

※学級の時間等を活用 / ☆新防災副読本「3・11から未来へ」の活用

仙台市立中田中学校 第3学年

1 学校・地域の実態について

名取川の南側に位置し、平地が広がる環境である。学区が名取川の氾濫による水害の浸水地域になっている。また、側溝等からの流出による浸水も考えられる。学区が広いので、登校に30分以上かけてくる生徒がいる。非常時でも自らの安全を確保するための行動ができるよう指導を行う必要がある。

2 平成30年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、自らの安全を確保できる生徒
- 【共助】 非常時に進んで他の人や地域の力になることができる生徒

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

- ・「教科・領域等に関連した防災教育」
- ・「保護者や地域と連携した防災教育」

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- (自助) 授業や防災訓練を通して、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付けることができ、生徒に告知しない避難訓練でも冷静に判断し、昨年度よりも早い時間で避難することができた。
- (共助) 授業や防災訓練を通して、自分に何が出来るかを考え、非常時に進んで他の人や地域の力になれるようにしたいと考えている生徒が増えた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 『東日本大震災の経験から～いのちの大切さを学ぶ～』(1, 3学年 保健体育)

自然災害の怖さや命の大切さを学ぶ機会として、講師の方を招き、1学年には着衣水泳を、3学年には講演会を実施した。5年前から継続して実施している。

着衣水泳の様子
保健体育



(2) 『防災知識の共有～我が家の防災対策～』(3学年 国語)

資料活用型スピーチの単元で、資料を効果的に活用して我が家の防災対策について1分間のスピーチを行った。3時間扱いで、1時間目に効果的なスピーチの仕方を知り、2時間目にリハーサルを見合い、効果的なスピーチの仕方を話し合った。3時間目にスピーチコンテストを行った。

講演会の様子
保健体育



(3) 『防災に関する知識～文章問題を通して～』(3学年 数学)

2章平方根、3章 $y = ax^2$ などの単元の活用の場面で、防災に関わる問題を提示し、取り組ませた。

例 マグニチュードと地震のエネルギーの間には、
どんな関係があるか。 答 $10\sqrt{10}$ 倍

スピーチ①
国語



(4) 『災害時のコミュニケーション～グループ学習を通して～』(3学年 英語)

Unit4 To Our Future Generations の単元で、災害時に日本語の分からない外国人とコミュニケーションをとる場面を設定し、ALTとの授業を行った。生活班で、状況や回避行動の書かれたカードを重要度順に並べ、分担を決め、英文を暗記し、ALTに伝えた。

スピーチ②
国語



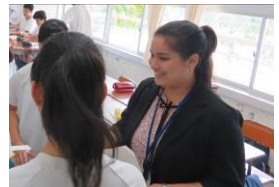
カードの内容

- ・ Go outside. Walk fast.
- ・ Can I get some water? など

班活動の様子
英語



ALTと会話
英語



防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科		学活・総合	学校行事	生徒会	道徳
	4	春の交通完全運動 校内安全点検	特別教室での注意(理科)	集団行動(保体) 情報に関する技術(技術)	登下校の安全 大地震 交通網のまひ	入学式 1学期始業式 非行防止教室	対面式 任命式
5	校内安全点検	用具の使い方(理科) 平方根(数学) 実践(3)	特別教室での注意(美術・保体・技家)用具の使い方(美術・保体・技家)	緊急時の連絡方法 大型連休の安全	校外学習 避難訓練(地震) 大地震	生徒総会 挨拶運動	集団の意義
6	みやぎ県民防災の日 市中総体 校内安全点検	実践(1) 火災	水泳(保体) 大雨, 河川洪水,	雨天時の安全	市中総体と安全 合唱コンクールと安全	激励会 挨拶運動	自主自立
7 8	全国安全週間 夏の交通事故防止運動 青少年の非行被害防止強 調月間 校内安全点検	二次関数(数学) 薬品の使い方(理科) 実践(3)	水泳(保体)	一次避難場所の 確認 夏休みの安全	地区集会 文化発表会と安全	激励会 挨拶運動	法の遵守
9	防災週間 国民防災の日 秋の交通安全運動 校内安全点検	Unit4 To Our Future Generations(英語) 実践(4)	デザインと環境 (美術)	災害時の対応	防災訓練 大地震 大雨, 河川洪水 交通網のまひ	立会演説会 挨拶運動	奉仕
10	安全・安心なまちづくりの日 全国地域安全運動 校内安全点検	話し合って提案 をまとめよう(国 語) 地方自治と私たち(社会) 実践(2)		秋休みの安全	1学期終業式 2学期始業式 運動会と安全	任命式 挨拶運動	友情の尊さ
11	全国火災予防運動 津波防災の日 校内安全点検			火災時の対応	避難訓練(火災) 火災	挨拶運動	社会連帯
12	年末年始の交通事故防止 運動 校内安全点検	課題解決に向け て話し合おう(国 語) 三平方の定理 (数学)	感染症の予防 (保体)	冬休みの安全	新入生授業参観	挨拶運動	郷土愛
1	国民防災とボランティア週 間 校内安全点検	自然の恵みと災 害(理科) 大雨, 増水, 河川増水, 落雷, 暴風, 大雪		火気の取扱 凍結時の安全 火災		挨拶運動	人間愛
2	校内安全点検		家族・家庭と子 どもの成長(家 庭)	降雪時の安全 大雪, 交通網のまひ		予餞会 挨拶運動	生命の尊重
3	春期全国火災予防運動 校内安全点検	標本調査(数学)		春休みの安全	卒業式 2学期終業式	挨拶運動	社会への奉仕

仙台市立芦口小学校 第5学年

1 学校・地域の実態について

- ・児童生徒：素直な子供が多く、学校行事や地域の行事に積極的に参加する姿が見られる。日頃から機会を捉えて指導していることもあり、避難訓練に真剣な姿勢で臨み、自助の力を高めている。共助の視点から見ると、集団で協力した防災訓練や地域の方との避難所運営などの機会はあるものの、自分にもできることはないかという視点で考えたり行動したりする力は十分とはいえない。
- ・保護者：地域の防災訓練や避難訓練の際には、協力的な家庭が多い。
- ・地域：学校に協力的な町内会や地域の方々が多く、運動会や防災訓練、そして日頃の安全指導など幅広く支援をいただいている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：坂が多い地域のため、地滑りした場所がいくつかあった。学校は体育館を避難所として開設した。年1回地域合同防災訓練はしているものの、子供たちが実際の場面を想定したり、自分事として考えたりすることは難しくなっている。

2 令和元年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】 各種災害に関する基礎的な知識や対処方法を知り、日頃から災害に備え、自分の命を自分で守ることができる児童
- 【共助】 日頃から自分にできることを考え、互いに協力して活動し、有事の際に地域に参画できる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

総合的な学習の時間を軸にした、地域と連携した防災教育の推進

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

総合「ミニSBLになろう！」の振り返りでは、自分自身の変容を聞いた。「荒浜小学校に行ったときの自分と今の自分で、変わったことは何ですか。」すると、「関心を持つようになった」「もしもの時に自分でできることが増えた」「身近な物で、防災グッズを作れるようになった」という回答が多く聞かれた。身近なことから防災について自分事として捉えることができるようになったことは、成果と言える。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

自分が住む地域の防災について知る…地域のSBLさんと一緒にフィールドワークを実施した。震災当時実際に避難所を開設したときの体験談や、地域の被害の状況と、そのとき活躍した防災機器の説明を聞きながら自分の住む地域を回った。震災遺構見学の流れから、自分たちの住む地域の被害や、防災設備等について知ること、「自分事にするきっかけ」とすることができた。

震災当時の校長先生の体験談を聴く…震災遺構の見学から、震災の恐ろしさや、被害の状況について学んだ後、次に知りたいことは何かを問うたところ、「自分の学校の様子はどうだったのか知りたい」という声が多く聞かれた。そこで、当時の校長先生にお話を伺った。地域の方や先生方、そして中学生などの支えがあつて苦難を乗り越えたというお話を伺い、自分たちにできることがあることを知り、それは何か考える機会になった。

ミニSBLとしての実践発表…もしもの時、今の自分にできることを、「衣食住」の観点で考えさせ、グループごとに実践発表を行った。お世話になった荒浜の方々とSBLさんに向けて発表し、アドバイスや称賛の言葉をもらうことで、達成感を味わわせることができた。そして、「もし災害が起きたとしても、今の自分にできることが一つ増えた」という自信を持たせたことにつながったのが一番の成果であった。

防災教育年間指導計画

芦口小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特	活	道	徳
	4						
5	・集団下校訓練 ・芦ぶえプロジェクト ・戸口訪問	芦口学区の震災 当時のことを調 べる			☆立ち上が れ！ぼくらの復 興プロジェクト (2章⑤)①		
6	・たてわり活動 ・避難訓練(地震) ・芦ぶえプロジェクト	・けがの防止(体 育)	芦口学区探検 (防災マップ作り のため)				
7	・芦ぶえプロジェクト	・できるようにな ったかな家庭の仕 事(家庭)	・防災マップ作り ・震災当時の芦 口を知る方の話	地域の防災に ついて調べよう (校外学習・地 域の方に話を 聞く)		・夏休みの生活	
8	・登下校指導 ・芦ぶえプロジェクト					・2(3)友情・信 頼	
9	・地域合同防災訓練 (避難所設営) ・たてわり活動 ・野外活動	・台風と天気の変 化(理科)	・自分ができるこ とを考え・実践す る ・まとめ・発表	・野外活動時の 災害発生への対 応☆応急手当 の方法と救急 車の呼び方(4 章③:体育)①	地域総合防災訓練 ② ☆いろいろな自然災 害(3章②:理科)①	・3(2)自然愛・ 環境保全	
10	・芦ぶえプロジェクト	・流れる水のはたら き(理科) ☆津波のメカニズ ムと災害(3章①:理 科)①		☆災害時をくら すヒント(4章④) ①			
11	・避難訓練(業間・火災) ・たてわり活動			自分たちの取り 組みをまとめて 発表する。	・避難訓練	・3(1)生命尊重	
12	・芦ぶえプロジェクト ・スチューデントシティ	・情報化した社会 とわたしたちの生 活(社会) ☆災害時の情報 手段(3章③:社 会)①				・冬休みの生活	
1	・登下校指導 ・芦ぶえプロジェクト ・たてわり活動				・登下校の安全		
2	・芦ぶえプロジェクト ・たてわり活動	☆心と向き合っ て(4章⑦:体育)①				☆広がれ、つな がれみんなの 思い(5章④)① ①①	
3	・芦ぶえプロジェクト ・復興プロジェクト (震災を忘れない)	・自然災害を防ぐ (社会)			☆防災知識をチェッ クしよう(6章①) ☆仙台の自然災害 年表・復興年表(6章 ③)①	☆思いをかた ちに(5章⑤)①	
		3時間	(50時間)	3時間	2時間	3時間	1時間
	合計					12時間(関連内容を除く)	

☆ 年間指導計画 (副読本活用) ・関連内容等

仙台市立五橋中学校 第2学年

1 学校・地域の実態について

- ・児童生徒：震災に関する直接的体験や記憶が希薄ではあるが、資料や継続的な学習によって、危機意識は高く持っている。今年度は風水害によって何度も避難所が開設され、その都度授業などで話題にする機会があった。特に関東での集合住宅への浸水被害は身近なものであり、ハザードマップへの関心も高まった。
- ・保護者：ハブとなる集団ごとに取り組みの温度差があるように見えるが、生徒が主体となって行動することで巻き込んでいくことができると思われる。
- ・地域性：町内会を主体とした伝統的なつながりを有した地区は防災訓練などの行事への参加も盛んであるが、高層マンションなどの集合住宅については取り組みが見えづらい。
- ・東日本大震災時の地域の状況…建物被害は他の地域と大差ないものの、仙台駅に近いことから、避難所に集まる人々の構成が、地域住民より帰宅困難者など地域とのつながりのない人の比率が高く、他の地域とは異なる状況が発生していた。

2 令和元年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】学校や自分の住む地域、建物の特性を理解して、起こり得る状況に備えるスキルを向上させ、地域の中で頼られる存在としての生徒
- 【共助】学校をハブとして、一人ひとりが地域の中で大きな力となることのできる貢献できる生徒

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

学区の特殊性を踏まえた防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

生徒一人ひとりが災害時のノウハウを身につけたり、地域の特性を学んだりすることにより、自分の住む地区、建物で自分が役に立つ場面があることに気付けるようになった。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 避難所運営訓練への参加

青葉区総合防災訓練と合同で、避難所運営訓練を行った。生徒一人ひとりのスキルアップはもちろん、地域の人との交流を通して、いざというときに頼られる存在であることを自覚することができた。たくさんの人々が関わっていることを体験し、自分から進んで役割をこなす生徒が多数出てきた。



(2) 都市型洪水や台風にも備える（2学年理科）

台風接近時の学校の様子、幹線道路の浸水の様子などを通して、ハザードマップの有用性を確認。「せんだい減災コンパス」「仙台防災タウンページ」も合わせて使用。

(3) 講演会の実施（総合的な学習の時間・全学年）

東日本大震災当時、避難所の運営に携わった方をお迎えして、講演会を実施。当時の避難所の様子、避難所を運営する際の中学生の活動の様子などをお話いただき、中学生の力がいかに頼りにされていたのか、これからも中学生が期待されている点などを強く印象づけていただいた。



防災教育年間指導計画 第2学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	教科・領域 関連行事	教科	総合	特活	道徳
4				☆復興に駆ける(1章②) ☆自分を守る(4章②) ・避難カードの記入について	社会や公共のために役立つC(12)
5		情報に振り回されないために(技術)			
6	☆避難訓練・避難経路の確認・保護者引き渡し場所の確認		仙台市シェイクアウト訓練		
7	・故郷復興プロジェクト				郷土のことを考えるC(16)
8	・避難所運営訓練			避難所運営訓練	
9	・五橋祭		☆絆を力に 一歩ずつ(2章①)		☆約束(2章②)
10					
11	・避難訓練 ・職場体験 ・震災講話	気象災害への備え(理科)	震災講話 震災当時の様子を体験者から伺う	・避難訓練 ・事業所の防災対策を学ぶ	
12				☆がんばれ日本!世界は日本と共にある(5章⑤)	
1		☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章⑥:保体)			
2		☆仙台市復興状況を知ろう(2章⑦:社会) ☆様々な自然災害に備える(4章③:理科) ☆仙台平野災害の歴史を学ぼう(3章④:社会)		・地域の災害リスクについて知る	
3					☆一步一步...(1章③)

☆仙台版防災教育副読本

仙台市立八乙女小学校 第3学年

1 学校・地域の実態について

- ・児童生徒：震災から10年が過ぎ、6年生でも震災の記憶が残っている児童はほとんどいない。学校での防災教育の取組や保護者から聞く話、テレビなどを通して、震災についての情報を得てはいるものの、防災についての正しい知識を十分に身につけているとは言えない。しかし、防災に対する意識は高く、普段から非常放送をしっかり聞いたり、真剣に避難訓練に取り組んだりする姿が見られる。
- ・保護者：引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。一方で、地域とのつながりに煩わしさを感じているためか、町内会や子供会に所属していない家庭もある。
- ・地域性：各町内会での防災訓練・連合町内会での防災訓練・学校を含めた地域合同防災訓練と3年サイクルで、いろいろな方法で防災訓練を実施する計画となっているが、感染症への不安もあり、なかなか計画どおりに実施できていない。
- ・学校：東日本大震災後に教職に就いた教員も多く、教職員間でのOJTを実施し、震災についての理解を深め、指導に当たっている。

2 令和3年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

【自助】 平常時から災害に関する正しい知識や対応方法を身につけ、自らの安全を確保できる児童

【共助】 平常時から人とのつながりを大切に考え、非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

「教科等横断的な防災教育」「児童の問い（思い）に寄り添った総合的な学習の時間【防災】」

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・出前授業や総合的な学習の時間などを通して、震災当時の様子を詳しく知ることができた。防災について自分が興味を持ったことを調べ、交流し、考えを深めることができた。（3年）
- ・ハザードマップを見て、自分たちの地域でも災害は起こりうるという意識を持つことができた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 「震災遺構荒浜小学校」出前授業（3年：総合的な学習の時間）

3年生が総合的な学習の時間に防災の学習をしている。その中で、子供たちが防災について少しずつ調べ、考えてきたタイミングで、荒浜小学校で校長先生をされていた川村孝男先生にお話していただいた。そのおかげで、さらに子供たちが防災について考えたいという意欲を持つことができた。

(2) 八乙女防災カルタに挑戦しよう！（全校）

3年生が総合的な学習の時間に学んだことを全校へ発信した。今年度は防災カルタに全校で取り組んだ。



(3) たく生き授業プラン「本当に災害って起こるの？」（学級活動）の授業実践

全校で実施できる授業プランを考え、先行実施した。地域の実態把握のために防災ハザードマップを確認し、災害は自分たちの地域でも起こる可能性があるということを知った子供たちは真剣に考えることができた。避難訓練の事前指導として実施した。

防災教育年間指導計画

八乙女小学校 3学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度
学習内容		防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容
月	防災教育関連行事\教科・領域	教科・総合	特活	道徳※
4	避難経路の確認 聞き取り訓練（放送） 交通安全教室	社 学校のまわり（知）	・避難経路の確認 ●たった一つのもの(1章③) (技)	1「やさしい人大さくせん」 (思いやり・親切)（態）
5	不審者対応訓練			5「耳の聞こえないお母さんへ」 (家族愛)（態）
6	避難訓練 (地震・引渡訓練) 集団下校訓練	社 市の様子（知）	・避難訓練事前事後指導 (技)	
7	故郷復興プロジェクト (七夕飾り)		●自分できめる(4章④) (技) ・夏休みの生活（態）	11「ごみステーション」 (ボランティア活動)（態）
8				
9		●地しんについて知ろう(3章①)（知）	●家ぞくぼうさい会ぎをひらこう(4章⑤)（技）	
10		社 火事からくらしを守る（知）		19「いただいたいのち」 (生命の誕生)（態）
11	避難訓練（火災）		・避難訓練事前事後指導 (技)	●大切なこと(2章⑤) 25「ことぶき園に行ったよ」 (ボランティア活動)（態）
12		社 事故や事件からくらしを守る（知）	・冬休みの生活（態）	26「ぼくのおばあちゃん」 (家族愛)（態）
1			●たくさんのおうえん(5章①)（知）	
2		社 市の様子のうつりかわり（知）	●つたえようわたしたちのことばで(5章⑥)（技）	34「おじいちゃん、おばあちゃん、みていてね」(生命の誕生) (態)
3	故郷復興プロジェクト (朝会・歌…放送)			

仙台市立鶴谷中学校 第1学年

1 学校・地域の実態について

- ・児童生徒：東日本大震災から10年が経ち、防災意識が少しずつ薄れてきているものの、地震等の災害に対しては自らの安全確保などの行動は適切で、訓練にも意欲的に取り組んでいる。
- ・保護者：共働きをしている保護者が多いが、学校行事や引き渡し訓練などへの参加率も高く、比較的協力的な家庭が多い。
- ・地域性：住民の高齢化が進み、高齢者が地区人口の30%以上を占めている。そのため、震災発生時の力となる中学生への期待も大きい。
- ・東日本大震災時の状況：震災当時は、地震による被害が主で、家財に被害を受けた生徒は多いが、家族や親戚を失うなどの、心のケアが必要な生徒はほとんどいない。

2 令和3年度 仙台版防災教育で目指すべき児童生徒の姿

- 【自助】災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
- 【共助】非常時に進んで他の人に協力し、地域の力となれる生徒

3 目指すべき児童生徒の姿に迫る年間指導計画上のポイント

地域と連携し、自助・共助のスキルを高める防災教育

4 年間指導計画に基づいて実践した結果、児童生徒はどのように変容したか

- ・自助、共助の具体を知り、災害時に自分で判断して行動できる力を身に付けた。
- ・防災訓練では、学年に応じた機能訓練を行うことで防災に関する意識や知識が高まった。地域の方々や活動することにつながりが深まり、地域の中で自分ができることは何かを考えることができた。

< 年間指導計画に基づいた実践の具体 >

(1) 地震や火災を想定した避難訓練、引き渡し訓練

例年、年2回の避難訓練と小中合同で引き渡し訓練を実施している。非常時の行動の確認や各家庭との連携を図ることができた。

(2) プチレスキュー

3年間を通して、市民センターと連携をしてプチレスキュー活動を行っている。1年で「災害時の避難の仕方や事前の対策・準備」、2年で「応急手当や心肺蘇生法」、3年で「避難所の運営方法」などについて学び、いざというときに自ら動けるように防災教育を行っている。

(3) 東日本大震災の体験職員からの講話（道徳）

道徳の授業で被災地での実体験の話を扱ったり、3月11日に当時の状況について講話をしたりすることで、生徒に「命の大切さ」について考えさせるきっかけとなった。

(4) 被災地への訪問

1年生の校外学習で、被災地である雄勝町を訪れ、防災・減災について自ら考え、学ぶ機会をつくることができた。大川小学校なども訪れ、語り部体験なども行うことで当時の状況や深刻さを知ることができ、災害時の地域との連携や自ら考えて行動することの必要性について学んだ。

令和3年度 仙台市立鶴谷中学校 防災教育年間計画（1学年）

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	仙台版防災教育副読本の活用
学習内容		防災や災害に関する周 辺的・基礎的な内容	防災や災害に関する直接 的な内容	防災や災害に関する間接 的な内容	
月	防災・安全関連行事	教科 1年	総合・特別活動等	道徳	
4月	校内安全点検	・心身の機能の発達と心 の健康（保）	・日常の防災指導 ・安全な登下校の指導と 通学路の確認 ・災害時の対応方法 ・連絡網の確認 ・規律ある集団行動	・学年、学級集団のあり方	・東北地方太平洋沖地震 発生（第1章） ・復興に駆ける（第1章） ・心の健康を守るために （第4章）
5月	校内安全点検		・不審者への対応 ・連休の過ごし方 ・校外学習における災害 時対応方法	・生命の尊重 ・自立への意欲	・自分の身は自分で守る （第4章） ・約束（第2章） ・花と緑で人びとに笑顔を （第2章）
6月	校内安全点検 避難訓練（震災） （引渡しと集団下校体制）	・家族の安全を考えた室 内環境の整え方（家）	・災害時の避難方法と避 難経路の確認 ・救急体制の確認 ・校外活動時の防災		・一人一人が災害に備え る（第4章） ・家庭でできる災害の備 え（第4章）
7月	校内安全点検 プチレスキュー活動 家庭訪問	・快適な住まい方（家）	・長期休業中の過ごし方 ・家庭、地域における災 害時の対応	・世界平和、人間愛	・地域の一員として（第5 章）
8月			・職場体験中の安全		
9月	校内安全点検 プチレスキュー活動				・中学生の声（第2章）
10月	校内安全点検 避難訓練（火災） 地域防災訓練	・身近な地域の歴史（社）	・火災時の避難方法と避 難経路の確認 ・救急体制の確認 ・地域防災活動の確認	・思いやりとボランティア 精神	・仙台市の復興状況を知 ろう（第2章） ・仙台平野 災害の歴史 を学ぼう（第3章） ・知っておきたい心肺蘇 生の方法とAEDの使用 （第4章）
11月	校内安全点検 プチレスキュー活動 （防災講話）		・暖房器具使用の確認 ・ハンディキャップ体験	・法の遵守	・防災知識をチェックし よう（第6章） ・絆を力に（第2章） ・はじまり（第5章）
12月	校内安全点検	・情報の信頼性（技）	・長期休業中の過ごし方 ・家庭、地域における災 害時の対応		
1月	校内安全点検			・生命の尊重	
2月	校内安全点検			・自然の尊さ	・心を満たす食べ物を届 ける（第5章） ・がんばれば日本！世界は 日本と共にある（第5章）
3月	校内安全点検	・火山の形、活動の様子 ・地震の揺れの大きさと伝わり 方 ・地震の原因と地球内部 の動き ・地震に伴う土地の変化 （理）	・長期休業中の過ごし方 ・家庭、地域における災 害時の対応		

小学校【低学年】年間指導計画(単元配列表)モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語						・言い伝えられているお話を知ろうF(2)					
算数											
生活	・はじめましてE(4)		・たんけんしてみよう①C(2)				・たんけんしてみよう②C(2)		・じぶんでできることをしようE(1)		
音楽											
図工											
体育	・ならんでみようB(1)			・ちやくいすいえいB(1)							
道徳		・家族とのさいかい☆E(3)			・動物たちのいのち☆E(3)		・じぶんがしんごうきE(2)	・おうたんほどうでE(2)		・いのちがあつてよかったねE(3)	
学級活動	★あんしんあんぜんがっこうせいかつE(1)(2)	★じしんがおこったらどうするの☆B(1)		・たのしいなつやすみB(1)E(4)		・ぼうさいリュックを用意しよう☆B(1)	・かじのときにはB(1)	・たのしいふゆやすみB(1)E(4)			
学校行事等			・ひなんくんれんB(1)E(1)			・ぼうさいくんれんにさんかしよう☆B(1)E(1)					・ふっこうをめざして☆F(2)

3-2) 単元配列表モデル 小学校【中学年】

小学校【中学年】年間指導計画(単元配列表)モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語				・調べて書こう、わたしの研究レポートを書こうF(2)	・お願いやおれいの手紙を書こうE(4)						
社会	・学校のまわりC(2)	・市の様子D(1) ・住みよいくらしをつくるB(4)					・自然災害からくらしを守るA(4)			・市のうつりかわりA(3)	・特色ある地いきと人々のくらしA(4)
算数											
理科			・雨水のゆくえと地面のようすA(1)(2)	・風やゴムで動かそうA(1)							
音楽											
図工											
体育				・着衣水泳B(1)				・応急手当の方法と救急車の呼び方☆B(3)			
道徳	・やさしい人大さくせんE(2)			・「もっこ」をせおってF(1) ・ごみステーションF(1)	・一さつのおくりものE(2)	・ふるさとを守った大イチョウE(3)	・教えて！なんでもそうだん室F(1)			・おじいちゃん、おばあちゃん、みていてねE(3) ・ポロといっしょE(2)	・点字メニューにちょうせんF(1)
学級活動		★命を守る非常食☆C(1)(2)	・地しんから身を守ろうB(1)		★大雨・台風の水害から命を守る☆D(2)		・ふるさとを元気に自分たちにかできること☆F(2)			・ぼうさい知しきをチェックしようB(1)C(1)	・震災を乗り越えて☆F(2)
学校行事等	・災害が起きたら☆B(1)		・避難訓練B(1)			・地域防災訓練B(1)					・復興プロジェクトF(1)(2)(4)

小学校【高学年】単元配列表モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			・書き手の意図を考えよう「新聞記事を読み比べよう」F(2)								
社会		・震災復興の願いを実現する政治A(4)					・情報産業とわたしたちの暮らしB(2)			・わたしたちの生活と環境☆A(1)	
算数											
理科	・物の燃え方と空気A(1)				・台風と天気の変化A(2)	・流れる水のはたらきA(1)(2) ・大地のつくりと変化☆A(2)E(3)					
音楽				・希望の道F(2)							
図工											
家庭				・生活を支えるお金と物C(1)							・共に生きる地域での生活B(4) ・持続可能な社会を生きる☆B(4)
体育			・心の健康☆(1)	・着衣水泳B(1)	★防災人としての知恵～けがの手当～☆B(3)				・自然災害によるけがの防止(発展)D(1)		
道徳	・うちらねこのボランティアF(1)		・土石流の中で救われた命E(2)		・一番大切なことは☆F(3)	・わたしのボランティア体験F(1)(3)	・コースチャぼうやを救えE(3)		・東京大空襲の中で ・一本松は語ったE(3)	・小さな連絡船「ひまわり」F(1)(3)	
総合							★語り継ごう東日本大震災☆F(2)				
学級活動	・高学年としてE(4)		・家族防災会議を開こう☆C(1)	・地域のリーダーとしてF(3) ・夏休みを有意義にF(3)		★大災害に備えよう☆B(1)		・家族とのつながりC(1) ・冬休みの過ごし方D(1)(2)	・異学年と交流しようE(2)		・思いをかたちに☆F(1)
学校行事等	・避難経路の確認、登下校の安全B(1)	・非常時下校体制の確認B(1)	・避難訓練(地震)B(1)			・地域防災訓練B(1)	・避難訓練(火災)B(1)				・復興プロジェクトF(1)(2)(4)

3-(4) 単元配列表モデル 中学校【1年～3年】

中学校【1年～3年】単元配列表モデル

★本ガイドに掲載の単元 ☆仙台版防災教育副読本

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語			・メディアの特徴を生かして情報を集めようB(2)			・古典に残る災害を読んでみよう☆A(3)					
社会			・【地理】日本の様々な地域A(1) ・【歴史】身近な地域の歴史C(2)	・【公民】現代社会の特色と私たち(情報化)A(3)		・【公民】地方自治と私たち☆C(3)					
数学	・正負の数A(1)										・数学の自由研究[比例と反比例]A(2)
理科								・天気とその変化A(2)	・大地の変化A(2)(3)B(4)		
音楽											
美術		・あの日を忘れないF(1)							・ひと目で伝えるための工夫F(1)		
技術		・情報の信頼性B(2)									
家庭								・安全な住まいで安全な暮らしC(1)			
保健体育	・集団行動B(1)	・応急処置の方法☆B(3)	・心肺蘇生方法☆B(3)	・AEDの使い方☆B(3)	・着衣水泳B(1)						
英語						・道案内F(1)					
道徳	・一步一步力強く語り部として☆E(1)	・花と緑で人々に笑顔を☆	・一冊の漫画雑誌F(1)		・田老の生徒がつたえたものF(1)	・震災の中でF(3)	・心に寄り添う☆E(4)		・ともに育つ☆F(3)	・約束☆F(4)	
学級活動	・防災知識をチェックしよう☆A(1)B(1)C(1)	★自然災害に備えよう☆A(2)(3)	・災害発生時の対応☆B(1)D ・防災クロスロードゲームD ★避難所開設時、私たちにできること☆F(3)	・夏季休業中の安全D	・災害発生時の対応☆B(1)D	・避難訓練の意義☆C(1)	★災害心理と正しい情報の入手☆B(2)	・冬季休業中の生活D	★「復興への歩み」を語り継ごう☆E(4) ・災害時の安全な行動C(1)	★自分を守る☆D	・春季休業中の生活D ★震災を語り継ごう☆F(2)
学校行事等	・避難方法と避難経路の確認B(1)C(1)	・引き渡し訓練C(1)	避難訓練の意義B(1)			・地域防災訓練B(1)					・復興プロジェクトF(1)(3)

4 復興ソング

希望の道 (小学校)

作詞 越後 瑠璃 (当時 台原小学校6年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

夜空 見上げて 思い出す あの日の星の かがやきを
日差しを浴びて 思い出す あの日の人の あたたかさ
だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 未来への道を

雪のまう日に 思い出す あの日の夜の 冷たさを
ラジオの語りに 思い出す あの日が教えてくれたこと
日本中が助け合い 世界中が支えてくれた
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩いていこう 希望の道を

だれもがみんな助け合い だれもがみんな支え合った
あの日のことを 心に刻み 前をしっかりと 見つめながら
歩き続けよう 希望の道を 希望の道を

仲間とともに (中学校)

作詞 藪内 海美 (当時 南小泉中学校2年)
作曲 かの 香織 遊佐 未森
編曲 佐藤 準

私には何ができるだろう 感謝の気持ちを忘れないこと
復興を心から祈ること 優しさと笑顔をみんなに届けること
不安で前が見えなくなったあの日から

私たちは歩き始めた 未来という光を目指して
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

私には何ができるだろう 思いやりの心を忘れないこと
街中の幸せを願うこと 残された命を精一杯生きること
大事なものを失くして泣いたあの日から

私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

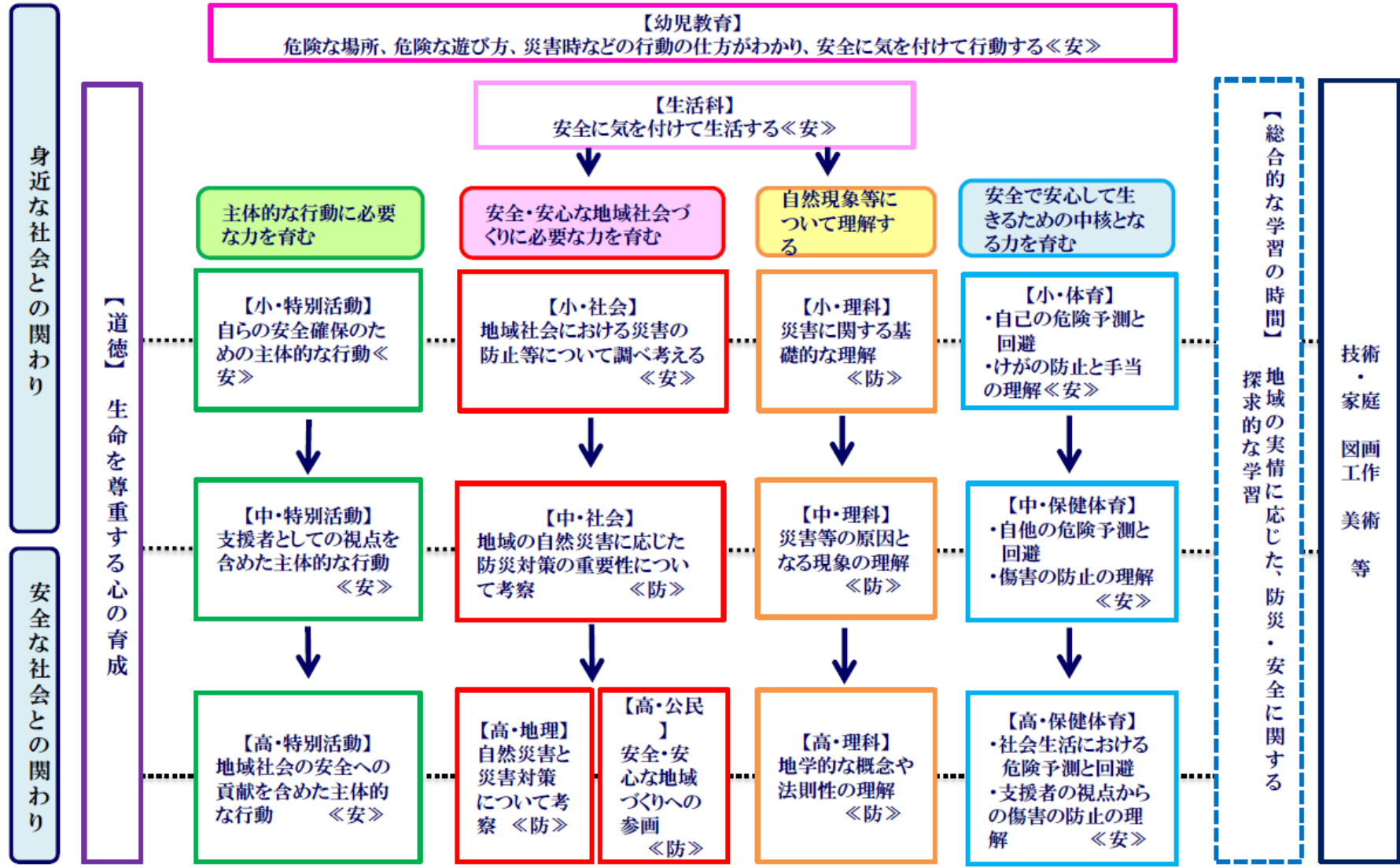
私たちは歩き始めた 大好きなこの街を抱きしめ
前へ前へ仲間とともに 一步一步力強く

※ 『復興ソング』の楽譜及び音源は、下記URLにて配信しています。

<https://www.sendai-c.ed.jp/23hukkou/hukkou3.html>

<https://www.sendai-c.ed.jp/23hukkou/hukkou4.html>

教科等横断的な視点から教育課程を編成



《防》…防災 《安》…防災を含む安全

(中央教育審議会, 2017)

6 学習指導要領に基づいた各教科等における防災教育の内容と主な留意事項

本資料は、学習指導要領における防災教育について、育成を目指す資質・能力に関連する各教科等の主な内容や留意事項等をまとめたものです。各学校では、教育目標や児童生徒の実態を踏まえた上で、カリキュラム・マネジメントの参考として活用してください。

総 則

学習指導要領 () 内は中学校	学習指導要領解説【総則編】
<p>第1 小学校（中学校）教育の基本と教育課程の役割</p> <p>2 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、児童（生徒）に生きる力を育むことを目指すものとする。</p> <p>(3) 学校における体育・健康に関する指導を、児童（生徒）の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科（保健体育科）、家庭科（技術・家庭科）及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。</p>	<p>(3) 健やかな体</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災をはじめとする様々な自然災害の発生や、情報化等の進展に伴う生徒を取り巻く環境の変化などを踏まえ、生徒の安全・安心に対する懸念が広がっていることから、安全に関する指導の充実が必要である。さらに、児童（生徒）が心身の成長発達について正しく理解することが必要である。 ○ 安全に関する指導においては、様々な自然災害の発生や、情報化やグローバル化等の社会の変化に伴い児童（生徒）を取り巻く安全に関する環境も変化していることから、身の回りの生活の安全、交通安全、防災に関する指導や、情報技術の進展に伴う新たな事件・事故防止、国民保護等の非常時の対応等の新たな安全上の課題に関する指導を一層重視し、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結び付けるようにすることが重要である。
<p>第2 教育課程の編成</p> <p>2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成</p> <p>(2) 各学校においては、児童（生徒）や学校、地域の実態及び児童（生徒）の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。</p>	<p>(2) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 未曾有の大災害となった東日本大震災や平成28年の熊本地震をはじめとする災害等による困難を乗り越え次代の社会を形成するという大きな役割を担う児童（生徒）に、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を教科横断的に育成することが一層重要となっている。

小学校

教科等	低学年	中学年	高学年
社会科		〔第3学年〕 (1) 身近な地域や市区町村の様子 (3) 地域の安全を守る働き 〔第4学年〕 (2) 人々の健康や生活環境を支える事業 (3) 自然災害から人々を守る活動	〔第5学年〕 (5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連 〔第6学年〕 (1) 我が国の政治の働き
理科		〔第4学年〕 B 生命・地球 (3) 雨水の行方と地面の様子	〔第5学年〕 B 生命・地球 (3) 流れる水の働きと土地の変化 (4) 天気の変化 〔第6学年〕 B 生命・地球 (4) 土地のつくりと変化
生活科	〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕 (1) 学校生活に関わる活動 (3) 地域に関わる活動 〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕 (4) 公共物や公共施設を利用する活動		
体育科			〔第5・6学年〕 G 保健 (2) けがの防止
特別の教科 道徳	A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 〔生命の尊さ〕		
総合的な 学習の時間		3 (5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。	
特別活動	〔学級活動〕 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 〔学校行事〕 (3) 健康安全・体育的行事		

中学校

教科等	第1学年	第2学年	第3学年
社会科	〔地理的分野〕 C 日本の様々な地域 (1) 地域調査の手法 (2) 日本の地域的特色と地域区分 (3) 日本の諸地域 (4) 地域の在り方		〔公民的分野〕 A 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色
理科	〔第2分野〕 (2) 大地の成り立ちと変化	〔第2分野〕 (4) 気象とその変化	〔第2分野〕 (7) 自然と人間
保健体育科	〔保健分野〕 (3) 傷害の防止 (4) 健康と環境		
技術・家庭科	〔技術分野〕 A 材料と加工の技術 (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動 (2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動 B 生物育成の技術 (3) これからの社会の発展と生物育成の技術の在り方を考える活動 C エネルギー変換の技術 (2) 生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活動 D 情報の技術 (3) 生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動 〔家庭分野〕 A 家庭・家庭生活 (3) 家族・家庭や地域との関わり B 衣食住の生活 (6) 住居の機能と安全な住まい方		
特別の教科 道徳	A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕 D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 〔生命の尊さ〕 〔自然愛護〕		
総合的な 学習の時間	第2 3 (5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。		
特別活動	〔学級活動〕 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 〔生徒会活動〕 (3) ボランティア活動などの社会参画 〔学校行事〕 (3) 健康安全・体育的行事		

小学校低学年

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
生活科	<p>〔学校、家庭及び地域の生活に関する内容〕</p> <p>(1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。</p> <p>(3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。</p> <p>〔身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容〕</p> <p>(4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらの良さを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。</p>	<p>○ 自分との関わりで安全を守っている人の役割に気付くことで、次第に自分自身で行動し、いつでもどこでも安定的に行動できる児童の姿へ成長していくものと考えることができる。</p> <p>○ 安全については、自然災害、交通災害、人的災害の三つの災害に対する安全確保に配慮することが必要である。</p> <p>○ 安全に生活することは、児童自身が事故やけがなどがなく安全に生活できると同時に、安全で安心な場所としての地域の一員になることでもある。</p> <p>○ 児童が、その場の状況を捉え、危険を予測して行動できるようにすることが大切である。</p>	<p>小1・2・3年 第4章 1「ちゅうい！家のまわり 学校のまわり」</p> <p>2「ぼうさいマップを作ろう」</p>
特別の教科 道徳	<p>A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 〔生命の尊さ〕 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。</p>	<p>○ この段階においては、児童の日常生活における行動を通して、周囲に対する気配りや思いやりをもち互いの健康に心掛け、安全のきまりを守ってそれを実践することなどの具体的な指導を進める必要がある。</p> <p>○ この段階においては、生命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。</p> <p>○ 自分の生命そのもののかけがえのなさに気付けるようにすることが大切である。そのことを喜び、すばらしいことと感ずることによって、生命の大切さを自覚できるようにすることが求められる。</p>	<p>小1・2・3年 第2章 1「家族との再会」 第5章 4「動物たちのいのち」</p>

<p>特別活動</p>	<p>〔学級活動〕</p> <p>(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p> <p>〔学校行事〕</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p>	<p>○ 防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解すること、健康安全を意識した行動の仕方を身に付け、情報を集め状況に応じてよりよく判断を行い行動することができるようにすることが考えられる。</p> <p>○ 防犯や交通安全、防災の指導を行うに当たっては、保護者や地域と連携するなどして作成した「地域安全マップ」を活用するなど、日常生活で具体的に実践できるよう工夫することが大切である。</p> <p>○ 避難訓練など安全や防災に関する行事については、表面的、形式的な指導に終わることなく、具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。</p> <p>○ 地域の環境や地形、自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは、特に重視して行うようにする。</p>	<p>小1・2・3年 第1章 2「被害を受けた学校・地いき」 3「いっしょに前へ」 第4章 3「ひなんの仕方を考えよう」 5「家族ぼうさい会ぎをひらこう」 6「ぼうさいリユックをよういしよう」 8「けがをしたときは」 第5章 5「わたしたちにできること」 第4章 7「ぼうさいくんれんにさんかしよう」</p>
-------------	--	---	--

小学校第3学年

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
<p>社会科</p>	<p>(1) 身近な地域や市区町村の様子 学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。</p> <p>(3) 地域の安全を守る働き 学習の問題を追究・解決する活</p>	<p>○ 市役所など主な公共施設の場所と働きに着目するとは、人々が利用する主な公共施設の場所や施設としての働きについて調べることである。ここで取り上げる公共施設としては、市役所をはじめ、学校、公園、公民館、コミュニティセンター、図書館、児童館、体育館、美術館、博物館、資料館、文化会館、消防署、警察署、交番、裁判所、検察庁、港など、多くの市民が利用したり、市民のために活動したりしている施設が考えられる。その際、多くの公共施設は市役所によって運営されていることや、災害時における避難場所は市役所において指定されていることに触れることが大切である。</p> <p>※ アの(ア)の「緊急時に対処する体制をとっていること」と「防止に努めていること」については、</p>	<p>小1・2・3年 第1章 2「ひがいをうけた学校・地いき」 第4章 1「ちゅうい！家のまわり 学校のまわり」 第4章 2「ぼうさいマ</p>

	<p>動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(7) 消防署や警察署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。</p> <p>(4) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(7) 施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現すること。</p>	<p>火災と事故はいずれも取り上げること。その際、どちらかに重点を置くなど効果的な指導を工夫すること。</p> <p>※ イの(7)については、社会生活を営む上で大切な法やきまりについて扱うとともに、地域や自分自身の安全を守るために自分たちができることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。</p> <p>○ 火災については、例えば、防火設備の設置や点検、消防訓練の義務など、火災の防止に関する法やきまりを取り上げるなど、(中略)地域の人々の安全な生活の維持と向上を図るための法やきまりを扱うようにする。</p> <p>○ 学習したことを基に、地域の人々が行っている火災予防、交通安全や防犯などに関わる活動の中から、地域社会の一員として自分たちにも協力できることを考えたり、自分自身の安全を守るために日頃から心掛けるべきことを選択・判断したりしてそれらを基に話し合うことなどが大切である。</p>	<p>マップを作ろう」</p> <p>3 「ひなんの仕方を考えよう」</p> <p>4 「自分でできる」</p> <p>5 「家族ぼうさい会ぎをひらこう」</p> <p>6 「ぼうさいリュックを用意しよう」</p> <p>7 「ぼうさいくんれんにさんかしよう」</p> <p>第5章</p> <p>5 「わたしたちができること」</p> <p>第6章</p> <p>1 「ぼうさい知しきをチェックしよう」</p>
<p>特別の教科 道徳</p>	<p>A 主として自分自身に関すること [節度、節制] 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をすること。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること [生命の尊さ] 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。</p>	<p>○ この段階においては、自分でできることは自分で行うこと、身の回りの安全に気を付けて行動すること、他の人から言われるのではなく、自分自身で考えて度を過ぎることなく、節度のある生活のよさを考えることができるよう、生活における自立を重視した指導を進めることが大切である。</p> <p>○ この段階においては、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、特にこの時期に生命の尊さを感じ得るように指導することが必要である。</p> <p>○ 指導に当たっては、生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。</p>	
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>3 各学校において定める目標及び内容の取扱い 各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的</p>	<p>○ 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題のことである。</p> <p>○ これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。また、これらの課題についても正解や答えが一つに定まって</p>	<p>小1・2・3年 第4章</p> <p>2 「ぼうさいマップを作ろう」</p> <p>第5章</p> <p>1 「せかいとのつながり」</p>

	な課題，地域の人々の暮らし，伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題，児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。	いるものではなく，既存の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって，こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ，その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。 〈探究課題の設定例〉 ・防災のための安全な町づくりとその取組	
特別活動	〔学級活動〕 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや，事件や事故，災害等から身を守り安全に行動すること。 〔学校行事〕 (3) 健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進，事件や事故，災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得，運動に親しむ態度の育成，責任感や連帯感の涵養，体力の向上などに資するようにすること。	○ 防災を含め，日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解すること，健康安全を意識した行動の仕方を身に付け，情報を集め状況に応じてよりよく判断を行い行動することができるようにすることが考えられる。 ○ 防犯や交通安全，防災の指導を行うに当たっては，保護者や地域と連携するなどして作成した「地域安全マップ」を活用するなど，日常生活で具体的に実践できるよう工夫することが大切である。 ○ 避難訓練など安全や防災に関する行事については，表面的，形式的な指導に終わることなく，具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。 ○ 地域の環境や地形，自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは，特に重視して行うようにする。	小1 2 3 第1章 2「被害を受けた学校・地いき」 3「いっしょに前へ」 第4章 3「ひなんの仕方を考えよう」 5「家族ぼうさい会ぎをひらこう」 6「ぼうさいリユックをよういしょう」 8「けがをしたときは」 第5章 5「わたしたちにできること」 第4章 7「ぼうさいくんれんにさんかしよう」

小学校第4学年

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
社会科	(2) 人々の健康や生活環境を支える事業 学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (7) 飲料水，電気，ガスを供給		小4・5・6年 第3章 3「災害時の情報手段」

	<p>する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。</p> <p>(3) 自然災害から人々を守る活動 学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。</p> <p>(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。</p>	<p>※ アの(ア)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から、過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。</p> <p>○ 例えば、地震災害を取り上げる場合には、国と県と市の協力による防災情報の提供、津波や土砂崩れなどへの対策、緊急避難場所の指定や備蓄倉庫の設置、地震の発生を想定した緊急時の連絡体制などの整備、及び救助計画、避難訓練など地域の人々の協力と参加を取り上げることが考えられる。</p> <p>○ 風水害を取り上げる場合には、国や県の働きや近隣の市の協力により、崖崩れによる災害の防止や砂防ダムの建設、河川の改修、水防倉庫の設置、避難場所の確保など、風水害を未然に防ぐ努力をしていることや、避難訓練の実施、地域の消防団による危険箇所の見回りや点検など、地域の住民が風水害防止に協力していることを取り上げることが考えられる。</p> <p>※ アの(ア)及びイの(ア)の「関係機関」については、県庁や市役所の働きなどを中心に取り上げ、防災情報の発信、避難体制の確保などの働き、自衛隊など国の機関との関わりを取り上げること。</p> <p>※ イの(ア)については、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。</p> <p>○ 県内で様々な自然災害が度々起きていることや、自然災害は気象や地象の状況と深い関係があることなどを踏まえて、日ごろから気象庁などからの情報や防災情報、地域の地理的環境などに関心をもち、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるように指導することが大切である。</p>	<p>第5章 1 「つながる～世界の国々と～」 2 「人々をつなげる活動」</p>
理科	<p>B 生命・地球 (3) 雨水の行方と地面の様子 雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に</p>	<p>○ ここでの指導に当たっては、雨水の行方と地面の様子について調べる際、実際に校庭や教材園などに出て、地面の傾きの様子を調べたり、虫眼鏡で土の粒の大きさを観察したり、校庭や教材園、砂場などから土を採取して、粒の大きさの違いによる水のしみ込み方の違いを調べたり</p>	<p>小4・5・6年 第3章 2 「いろいろな自然災害」</p>

	<p>付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(7) 水は、高い場所から低い場所へと流れて集まること。</p> <p>(4) 水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。</p> <p>イ 雨水の行方と地面の様子について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。</p>	<p>することが考えられる。</p> <p>○ 日常生活との関連として、ここでの学習が排水の仕組みに生かされていることや、雨水が川へと流れ込むことに触れることで、自然災害との関連を図ることも考えられる。</p> <p>○ なお、校庭での観察については、急な天候の変化や雷等に留意し、事故防止に配慮するように指導する。</p>	
<p>特別の教科 道徳</p>	<p>A 主として自分自身に関すること [節度、節制] 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること [生命の尊さ] 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。</p>	<p>○ この段階においては、自分でできることは自分で行うこと、身の回りの安全に気を付けて行動すること、他の人から言われるのではなく、自分自身で考えて度を過ぎることなく、節度のある生活のよさを考えることができるよう、生活における自立を重視した指導を進めることが大切である。</p> <p>○ この段階においては、現実性をもって死を理解できるようになる。そのため、特にこの時期に生命の尊さを感じ得るように指導することが必要である。</p> <p>○ 指導に当たっては、生命は唯一無二であることや、自分一人のものではなく多くの人々の支えによって守り、育まれている尊いものであることについて考えたり、与えられた生命を一生懸命に生きることのすばらしさについて考えたりすることが大切である。</p>	<p>小4・5・6 第2章 1「希望の詩～「ない」～」</p>
<p>総合的な学習の時間</p>	<p>3 各学校において定める目標及び内容の取扱い 各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。</p>	<p>○ 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題のことである。</p> <p>○ これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。また、これらの課題についても正解や答えが一つに定まっているものではなく、既存の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。</p> <p>(探究課題の設定例)</p> <p>・防災のための安全な町づくりとその取組</p>	<p>小4・5・6年 第2章 2「復興への第一歩」 3「災害に強いまちづくりを目指して」 4「復興への道は続く」</p> <p>第4章 2「災害から身を守るために」 8「震災から文化財を守りつぐ人々」</p> <p>第5章 3「取り組もう！ボランティア活動」</p>

<p>特別活動</p>	<p>〔学級活動〕</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全</p> <p>ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p> <p>〔学校行事〕</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事</p> <p>心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p>	<p>○ 防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解すること、健康安全を意識した行動の仕方を身に付け、情報を集め状況に応じてよりよく判断を行い行動することができるようにすることが考えられる。</p> <p>○ 防犯や交通安全、防災の指導を行うに当たっては、保護者や地域と連携するなどして作成した「地域安全マップ」を活用するなど、日常生活で具体的に実践できるよう工夫することが大切である。</p> <p>○ 避難訓練など安全や防災に関する行事については、表面的、形式的な指導に終わることなく、具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。</p> <p>○ 地域の環境や地形、自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは、特に重視して行うようにする。</p>	<p>第3章</p> <p>4 「大きな災害と人間の心の動き」</p> <p>第4章</p> <p>1 「災害がおきたら」</p> <p>2 「災害から身を守るために」</p> <p>4 「災害時をくらすヒント」</p> <p>5 「災害に備える」</p> <p>6 「家族防災会議を開こう」</p>
-------------	---	---	--

小学校第5学年

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
<p>社会科</p>	<p>(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活</p> <p>学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。</p> <p>(イ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。</p>	<p>※ アの(ア)については、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などを取り上げること。</p> <p>○ ここでは、第4学年の内容の(3)「自然災害から人々を守る活動」とのねらいの違いに留意する必要がある。第4学年では、県内などで発生した自然災害を取り上げ、地域の関係機関や人々による自然災害への対処や備えを通して地域社会について理解することに、第5学年では、国土において発生する様々な自然災害を取り上げて、自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解することに、それぞれねらいがあることに留意することが大切である。</p> <p>○ 気象条件など、理科における学習内容との関連を図った指導を工夫することも大切である。</p>	<p>小4・5・6年</p> <p>第3章</p> <p>3 「災害時の情報手段」</p>

理科	<p>B 生命・地球</p> <p>(3) 流れる水の働きと土地の変化</p> <p>流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(ウ) 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。</p> <p>イ 流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。</p> <p>(4) 天気の変化</p> <p>天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。</p> <p>イ 天気の変化の仕方について追究する中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。</p>	<p>※ アの(ウ)については、自然災害についても触れること。</p> <p>○ 本内容は、第4学年「B(3)雨水の行方と地面の様子」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「地球の内部と地表面の変動」、「地球の大気と水の循環」に関わるものであり、第6学年「B(4)土地のつくりと変化」の学習につながるものである。</p> <p>○ 観察、実験の結果と実際の川の様子とを関係付けて捉えたり、長雨や集中豪雨により増水した川の様子を捉えたりするために、映像、図書などの資料を活用することが考えられる。</p> <p>○ 日常生活との関連としては、長雨や集中豪雨をもたらす川の増水による自然災害に触れるようにする。</p> <p>※ アの(イ)については、台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れること。</p> <p>○ 本内容は、第4学年「B(4)天気の様子」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「地球の大気と水の循環」に関わるものであり、中学校第2分野「(4)気象とその変化」の学習につながるものである。</p> <p>○ 指導に当たっては、身近な自然現象としての雲を観察することにより、気象現象に興味・関心をもち、天気を予想することができるようにする。</p> <p>○ 日常生活との関連としては、長雨や集中豪雨、台風などの気象情報から、自然災害に触れるようにする。</p>	<p>小4・5・6 第3章 1 「地震と津波のメカニズムと災害」</p> <p>2 「いろいろな自然災害」</p>
体育科	<p>〔保健領域〕</p> <p>(2) けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア けがの防止に関する次の事項を理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。</p> <p>(イ) けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。</p>	<p>※ けがや病気からの回復についても触れるものとする。</p> <p>○ けがをしたときには、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの人に知らせることが大切であることを理解できるようにする。</p> <p>○ 自らできる簡単な手当には、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法があることを理解できるようにする。</p> <p>○ すり傷、鼻出血、やけどや打撲などを適宜取り</p>	<p>小4・5・6年 第4章 1 「災害が起きたら」</p> <p>3 「応急手当の方法と救急車の呼び方」</p>

	<p>いけがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。</p>	<p>上げ、実習を通して、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの自らできる簡単な手当ができるようにする。</p>	
特別の教科 道徳	<p>A 主として自分自身に関すること 〔節度、節制〕 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること 〔生命の尊さ〕 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。</p>	<p>○ この段階では、危険から身を守り、自分だけでなく周囲の人々の安全にも気を付けることを指導することが求められる。</p> <p>○ この段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。</p> <p>○ 指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。</p>	
総合的な学習の時間	<p>3 各学校において定める目標及び内容の取扱い 各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。 (5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。</p>	<p>○ 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題のことである。</p> <p>○ これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。また、これらの課題についても正解や答えが一つに定まっているものではなく、既存の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。 〈探究課題の設定例〉 ・防災のための安全な町づくりとその取組</p>	<p>小4・5・6年 第2章 2「復興への第一歩」</p> <p>3「災害に強いまちづくりを目指して」</p> <p>4「復興への道は続く」</p> <p>第4章 2「災害から身を守るために」</p> <p>8「震災から文化財を守りつづぐ人々」</p> <p>第5章 3「取り組もう！ボランティア活動」</p>
特別活動	<p>〔学級活動〕 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p>	<p>○ 防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解すること、健康安全を意識した行動の仕方を身に付け、情報を集め状況に応じてよりよく判断を行い行動することができるようにすることが考えられる。</p> <p>○ 防犯や交通安全、防災の指導を行うに当たっては、保護者や地域と連携するなどして作成した「地域安全マップ」を活用するなど、日常生活で具体的に実践できるよう工夫することが大切</p>	<p>小4・5・6年 第3章 4「大きな災害と人間の心の動き」</p>

	<p>[学校行事]</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事</p> <p>心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p>	<p>である。</p> <p>○ 避難訓練など安全や防災に関する行事については、表面的、形式的な指導に終わることなく、具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。</p> <p>○ 地域の環境や地形、自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは、特に重視して行うようにする。</p>	<p>第4章</p> <p>1 「災害がおきたら」</p> <p>2 「災害から身を守るために」</p> <p>4 「災害時をくらすヒント」</p> <p>5 「災害に備える」</p> <p>6 「家族防災会議を開こう」</p>
--	---	--	--

小学校第6学年

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
社会科	<p>(1) 我が国の政治の働き</p> <p>学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。</p> <p>(ロ) 見学・調査したり各種の資料で調べたりして、まとめること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。</p>	<p>※ アの(イ)の「国や地方公共団体の政治」については、社会保障、自然災害からの復旧や復興、地域の開発や活性化などの取組の中から選択して取り上げること。</p> <p>○ 自然災害からの復旧や復興の取組を取り上げる場合には、災害が発生したときに市役所、県庁が、自衛隊の派遣を要請するなど国と協力しながら救援活動を行ったり災害復旧のために物流拠点を配置したり、さらに、長期的な視野に立って地域の再興に向けて様々な施策を実行したりしていることなどを具体的に調べるようにすることが考えられる。</p>	<p>小4・5・6年 第3章 3 「災害時の情報手段」</p>
理科	<p>B 生命・地球</p> <p>(4) 土地のつくりと変化</p> <p>土地のつくりと変化について、土地やその中に含まれる物に着目して、土地のつくりやでき方を多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技</p>	<p>※ アの(ロ)については、自然災害についても触れること。</p> <p>○ 本内容は、第4学年「B(3)雨水の行方と地面の様子」、第5学年「B(3)流れる水の働きと土地の変化」の学習を踏まえて、「地球」についての基本的な概念等を柱とした内容のうちの「地球の内部と地表面の変動」に関わるものであり、中学校第2分野「(2)大地の成り立ちと変化」の学習につながるものである。</p>	<p>小4・5・6 第3章 1 「地震と津波のメカニズムと災害」</p> <p>第3章 2 「いろいろな自然災害」</p>

	<p>能を身に付けること。</p> <p>(ウ) 土地は、火山の噴火や地震によって変化すること。</p> <p>イ 土地のつくりと変化について追究する中で、土地のつくりやでき方について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。</p>	<p>○ 日常生活との関連としては、火山の噴火や地震がもたらす自然災害に触れるようにする。その際、映像、図書などの資料を基に調べ、過去に起こった火山の活動や大きな地震によって土地が変化したことや将来にも起こる可能性があることを捉えるようにする。</p>	
特別の教科 道徳	<p>A 主として自分自身に関すること [節度、節制] 安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること [生命の尊さ] 生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。</p>	<p>○ この段階では、危険から身を守り、自分だけでなく周囲の人々の安全にも気を付けることを指導することが求められる。</p> <p>○ この段階においては、個々の生命が互いを尊重し、つながりの中にあるすばらしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めるとともに、生死や生き方に関わる生命の尊厳など、生命に対する畏敬の念を育てることが大切である。</p> <p>○ 指導に当たっては、家族や仲間とのつながりの中で共に生きることのすばらしさ、生命の誕生から死に至るまでの過程、人間の誕生の喜びや死の重さ、限りある生命を懸命に生きることの尊さ、生きることの意義を追い求める高尚さ、生命を救い守り抜こうとする人間の姿の尊さなど、様々な側面から生命のかけがえのなさを自覚し生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにすることが求められる。</p>	
総合的な学習の時間	<p>3 各学校において定める目標及び内容の取扱い 各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。</p>	<p>○ 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題のことである。</p> <p>○ これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。また、これらの課題についても正解や答えが一つに定まっているものではなく、既存の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。</p> <p>〈探究課題の設定例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災のための安全な町づくりとその取組 	<p>小4・5・6年 第2章 2「復興への第一歩」</p> <p>3「災害に強いまちづくりを目指して」</p> <p>4「復興への道は続く」</p> <p>第4章 2「災害から身を守るために」</p> <p>8「震災から文化財を守りつぐ人々」</p> <p>第5章 3「取り組もう！ボランティア活動」</p>

<p>特別活動</p>	<p>〔学級活動〕</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p> <p>〔学校行事〕</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p>	<p>○ 防災を含め、日常及び災害時の安全確保には正しい知識が大切であることを理解すること、健康安全を意識した行動の仕方を身に付け、情報を集め状況に応じてよりよく判断を行い行動することができるようにすることが考えられる。</p> <p>○ 防犯や交通安全、防災の指導を行うに当たっては、保護者や地域と連携するなどして作成した「地域安全マップ」を活用するなど、日常生活で具体的に実践できるよう工夫することが大切である。</p> <p>○ 避難訓練など安全や防災に関する行事については、表面的、形式的な指導に終わることなく、具体的な場面を想定するなど適切に行うことが必要である。</p> <p>○ 地域の環境や地形、自然災害等に応じた避難訓練や地域住民と共同して実施する防災訓練などは、特に重視して行うようにする。</p>	<p>小4・5・6年 第3章 4「大きな災害と人間の心の動き」</p> <p>第4章 1「災害がおきたら」 2「災害から身を守るために」 4「災害時をくらすヒント」 5「災害に備える」 6「家族防災会議を開こう」</p>
-------------	--	---	--

中学校

教科等	内容	主な留意事項	仙台版防災教育副読本との関連
<p>社会科</p>	<p>〔地理的分野〕</p> <p>C 日本の様々な地域</p> <p>(1) 地域調査の手法 場所などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 次のような知識及び技能を身に付けること。 (ア) 観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解すること。 (イ) 地形図や主題図の読図、目的や用な技能を身に付けること。 イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (ア) 地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>	<p>※ (1)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(ア) 地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置付けて実施すること。なお、学習の効果を高めることができる場合には、内容のCの(3)の中の学校所在地を含む地域の学習や、Cの(4)と結び付けて扱うことができること。</p> <p>(イ) 様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、課題の追究に当たり、例えば、防災に関わり危険を予測したり、人口の偏在に関わり人口動態を推測したりする際には、縮尺の大きな地図や統計その他の資料を含む地理空間情報を適切に取り扱い、その活用の技能を高めるようにすること。</p> <p>○ 観察や調査については、総合的な学習の時</p>	<p>中学校 第2章 7「仙台市の復興状況を知ろう」 第3章 4「災害の歴史を学ぼう」</p>

<p>(2) 日本の地域的特色と地域区分</p> <p>次の①から④までの項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>① 自然環境 ② 人口 ③ 資源・エネルギーと産業 ④ 交通・通信</p> <p>ア 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(イ) ①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(イ) 日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(3) 日本の諸地域</p> <p>次の①から⑤までの考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>① 自然環境を中核とした考察の仕方 ② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③ 産業を中核とした考察の仕方 ④ 交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。</p>	<p>間、防災活動や遠足等の学校行事と組み合わせるなど、各学校で教育課程を工夫するなどして実施することが考えられる。例えば、(中略) 特別活動における地域と連携した防災訓練と関連付けて、生徒が実際に避難する経路や、経路上の地形や危険な箇所、避難に適した場所を地図に表したりすることなどが考えられる。</p> <p>※ (2)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(ア) ①から④までで示した日本の地域的特色については、系統的に理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。</p> <p>(イ) 地域区分に際しては、日本の地域的特色を見いだしやすくなるようにそれぞれ適切な数で区分すること。</p> <p>○ 自然災害については、防災対策にとどまらず、災害時の対応や復旧、復興を見据えた視点からの取扱いも大切である。その際、消防、警察、海上保安庁、自衛隊をはじめとする国や地方公共団体の諸機関や担当部局、地域の人々やボランティアなどが連携して、災害情報の提供、被災者への救援や救助、緊急避難場所の設営などを行い、地域の人々の生命や安全の確保のために活動していることなどにも触れることが必要である。</p> <p>※ (3)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(ア) 日本の諸地域については、国内を幾つかの地域に区分して取り上げることとし、その地域区分は、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。</p> <p>(イ) 学習する地域ごとに①から⑤までの考察の仕方の一つを選択することとし、①から④までの考察の仕方は、少なくとも一度は取り扱うこと。また、⑤の考察の仕方は、様々な事象や事柄の中から、取り上げる地域に応じた適切なものを適宜設定すること。</p> <p>(イ) 地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。</p> <p>○ 自然環境を中核とした考察の仕方については、地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それをそこに暮らす人々の生活・文化や産業などに関する事象と関連付け、自然環境が地域の人々の生活・文化や産業などと深い関係をもっていることや、自然災害に応じた防災対策が地域の</p>	
--	---	--

<p>(イ) ①から⑤までの考察の仕方では取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。</p> <p>(4) 地域の在り方</p> <p>空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。</p> <p>(ロ) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。</p> <p>〔公民的分野〕</p> <p>A 私たちと現代社会</p> <p>(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色</p> <p>位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 現代日本の特色として少子高</p>	<p>課題となることなどについて考察することが考えられる。</p> <p>※ (4)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(ア) 取り上げる地域や課題については、各学校において具体的に地域の在り方を考察できるような、適切な規模の地域や適切な課題を取り上げること。</p> <p>(イ) 学習の効果を高めることができる場合には、内容のCの(1)の学習や、Cの(3)の中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱うことができること。</p> <p>(ロ) 考察、構想、表現する際には、学習対象の地域と類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなど、具体的に学習を進めること。</p> <p>(エ) 観察や調査の結果をまとめる際には、地図や諸資料を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。</p> <p>○ 地理学習は現代の諸地域の特色を捉えることに主眼があることから、「地域的特色を追究する過程で生物や地学的な事象などを取り上げる際には、地域的特色を捉える上で必要な範囲にとどめる」よう配慮する必要がある。</p> <p>※ (1)については、次のとおり取り扱うものとする。</p> <p>(ア) 「情報化」については、人工知能の急速な進化などによる産業や社会の構造的な変化などと関連付けたり、災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること。</p> <p>○ 例えば、膨大なデータを分析して災害を予測する研究が進められるなど、人工知能の進化に伴う現代社会の様子と関連付け、観測さ</p>	
---	---	--

	<p>齢化, 情報化, グローバル化などが見られることについて理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力, 判断力, 表現力等を身に付けること。</p> <p>(ア) 少子高齢化, 情報化, グローバル化などが現在と将来の政治, 経済, 国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し, 表現すること。</p>	<p>れた情報や予測された情報が迅速に様々な情報端末に向けて発信されたり, これらを活用することによって被害の予防や拡大防止につながったりしていることを理解できるようにすることなどが考えられる。</p>	
理科	<p>〔第2分野〕</p> <p>(2) 大地の成り立ちと変化</p> <p>大地の成り立ちと変化についての観察, 実験などを通して, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら, 次のことを理解するとともに, それらの観察, 実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(ア) 身近な地形や地層, 岩石の観察</p> <p>㊦ 身近な地形や地層, 岩石の観察</p> <p>身近な地形や地層, 岩石などの観察を通して, 土地の成り立ちや広がり, 構成物などについて理解するとともに, 観察器具の操作, 記録の仕方などの技能を身に付けること。</p> <p>(イ) 地層の重なりと過去の様子</p> <p>㊧ 地層の重なりと過去の様子</p> <p>地層の様子やその構成物などから地層の成り立ちを考察し, 重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに, 地層と其中的化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること。</p> <p>(ウ) 火山と地震</p> <p>㊨ 火山活動と火成岩</p> <p>火山の形, 活動の様子及びその噴出物を調べ, それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに, 火山岩と深成岩の観察を行い, それらの組織の違いを成因と関連付けて理解すること。</p> <p>㊩ 地震の伝わり方と地球内部の働き</p>	<p>○ 地層及びその構成物, 火山, 地震等の現象が互いに関連していることを捉えさせ, 大地の成り立ちと変化について, 総合的に見ることができるようになることが重要である。</p> <p>※ アの(ア)の㊦の「身近な地形や地層, 岩石などの観察」については, 学校内外の地形や地層, 岩石などを観察する活動とすること。</p> <p>○ ここでの観察記録は, 「(イ) 地層の重なりと過去の様子」や「(ウ) 火山と地震」の学習で活用することが考えられる。</p> <p>※ アの(イ)の㊧については, 地層を形成している代表的な堆積岩も取り上げる。「地層」については, 断層, 褶曲にも触れること。「化石」については, 示相化石及び示準化石を取り上げる。「地質年代」の区分は, 古生代, 中生代, 新生代を取り上げること。</p> <p>○ 地層の広がり方の規則性については, 例えば, 離れた地点の幾つかの地層や剥離標本を比較したり, 地域のボーリングコアなどを活用したりして問題を見いだし, 火山灰層や砂層などを手掛かりに解決させる活動などが考えられる。その際, 地層に見られる断層, 褶曲について, 大地の変動と関連付けて触れる。</p> <p>※ アの(ウ)の㊨の「火山」については, 粘性と関係付けながら代表的な火山を扱うこと。「マグマの性質」については, 粘性を扱うこと。「火山岩」及び「深成岩」については, 代表的な岩石を扱うこと。また, 代表的な造岩鉱物も扱うこと。</p> <p>※ アの(ウ)の㊩については, 地震の現象面を中心に扱い, 初期微動継続時間と震源までの距離との定性的な関係にも触れること。また, 「地球内部の働き」については, 日本付近のプレートの動きを中心に扱い, 地球規模でのプレートの動きにも触れること。その際, 津波発生仕組みについても触れること。</p> <p>○ 初期微動継続時間の長さが震源からの距離に関係していることにも触れる。その際, 「緊急地震速報」との関連に触れることも考えられる。また, 地震の規模 (マグニチュード)</p>	<p>中学校 第3章 1 「世界でも自然災害のリスクが高い日本」 2 「3.11の地震を科学の目でとらえよう」 3 「地震に備えよう」 第4章 3 「様々な自然災害に備える」</p>

<p>地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。</p> <p>(エ) 自然の恵みと火山災害・地震災害</p> <p>⑦ 自然の恵みと火山災害・地震災害</p> <p>自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害について調べ、これらを火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて理解すること。</p> <p>イ 大地の成り立ちと変化について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。</p> <p>(4) 気象とその変化</p> <p>身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。</p> <p>(7) 気象観測</p> <p>⑦ 気象要素</p> <p>気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解すること。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて理解すること。</p> <p>⑧ 気象観測</p> <p>校庭などで気象観測を継続的に行い、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだして理解するとともに、観測方法や記</p>	<p>と観測地点の地震の揺れの強さ(震度)について理解させる。</p> <p>○ 地震によっては、海底の地形に急激な変化が起こり、津波が生じることについて触れる。また、水を含んだ砂層では液状化現象が起こることについて触れることも考えられる。</p> <p>※ アの(エ)の⑦の「火山災害と地震災害」については、記録や資料などを用いて調べること。</p> <p>○ 自然の恵み及び火山災害と地震災害を調べる場合は、例えば、大学などの防災研究機関、気象庁や地方の気象台などから情報を入手することが考えられる。さらに、図書館、博物館、科学館、ジオパークなどを利用したり、空中写真や衛星画像、情報通信ネットワークを通して得られる多様な情報を活用したりすることが考えられる。</p> <p>※ アに示す知識及び技能とイに示す思考力、判断力、表現力等とを相互に関連させながら、3年間を通じて科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指すものとする。</p> <p>○ 天気とその変化に関する学習を進める際には、継続的な気象観測の機会を設け、興味・関心を高めるようにする。</p> <p>○ 天気の変化や日本の天気の特徴が大気中の水の状態変化や大気の動き、海洋の影響と関連していることを捉えさせ、気象とその変化について総合的に見るようにすることが重要である。</p> <p>※ アの(7)の⑦の「大気圧」については、空気中にある物体にはあらゆる向きから圧力が働くことにも触れること。</p> <p>○ (気象要素について)湿度については大気中に水蒸気が含まれている割合を表し、風向については観測地点に吹いてくる風の方位を表し、風速については空気が1秒あたりに進む距離として表すことを理解させる。</p> <p>○ (気象観測について)アメダス(AMeDAS; 地域気象観測システム)などの地域の気象情報を自らの観測結果に加えて考察させることも考えられる。</p> <p>○ 気象観測は、前線の通過が予想されるときや季節に特徴的な天気が見られるときを利用して継続的に行い、観測の技能を身に付けさせる。ここでの観測記録を、「(イ)天気の変化」や「(ウ)日本の気象」の学習で活用することが考えられる。</p> <p>※ アの(イ)の⑧については、気温による飽和水蒸気量の変化が湿度の変化や凝結に関わり</p>	
---	---	--

<p>録の仕方を身に付けること。</p> <p>(イ) 天気の変化</p> <p>⑦ 霧や雲の発生 霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解すること。</p> <p>⑧ 前線の通過と天気の変化 前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けて理解すること。</p> <p>(ウ) 日本の気象</p> <p>⑦ 日本の天気の特徴 天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解すること。</p> <p>⑧ 大気の動きと海洋の影響 気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響に関連付けて理解すること。</p> <p>(エ) 自然の恵みと気象災害</p> <p>⑦ 自然の恵みと気象災害 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。</p> <p>イ 気象とその変化について、見直しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。</p> <p>(7) 自然と人間 自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験など</p>	<p>があることを扱うこと。また、水の循環にも触れること。</p> <p>○ (霧や雲の発生について) 雲の成因については、高度による大気圧の変化と、大気の上昇に伴う気温の低下を取り上げる。例えば、密閉された袋が高度変化に伴う気圧の低下によって膨らむ現象などを取り上げることが考えられる。</p> <p>※ アの(イ)の⑦については、風の吹き方にも触れること。</p> <p>○ (前線の通過と天気の変化について) 気象観測などのデータや天気図から、前線付近の暖気と寒気の動きに気付かせ、前線の通過に伴う天気の変化について理解させる。その際、高気圧、低気圧のまわりの風の吹き方に触れる。</p> <p>○ (日本の天気の特徴について) 台風の進路が夏から秋にかけて変化していることに気付かせ、台風の進路が小笠原気団の発達や衰退と密接に関わっていることを理解させることが考えられる。</p> <p>※ アの(ウ)の⑦については、地球を取り巻く大気の動きにも触れること。また、地球の大きさや大気の厚さにも触れること。</p> <p>※ アの(エ)の⑦の「気象災害」については、記録や資料などを用いて調べること。</p> <p>○ 台風について扱う場合は、被害をもたらした過去の台風の特徴を取り上げるとともに、台風の進路に基づいて強風や高潮などによる災害の発生した状況を整理させる学習が考えられる。</p> <p>○ 洪水について扱う場合は、気象庁が発表する各種情報や警報などを取り上げるとともに、洪水の記録や資料などから災害を起こした大雨、融雪などの特徴、浸水地域と土地の特徴などを整理させる学習が考えられる。</p> <p>○ レポートの作成や発表を適宜行わせ、科学的な根拠に基づいて表現する力などを育成することも大切である。</p> <p>※ アに示す知識及び技能とイに示す思考力、判断力、表現力等とを相互に関連させながら、3年間を通じて科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指すものとする。</p> <p>※ アの(ア)の⑦については、地域の自然災害を調べたり、記録や資料を基に調べたりするなどの活動を行うこと。</p> <p>○ 例えば、活断層の存在、津波の痕跡や資料、火山灰の分布、洪水の痕跡などを基にして、生じた自然現象と被害との関係を認識させ、ハザードマップなどを基にその被害を最小</p>
---	---

	<p>に関する技能を身に付けること。</p> <p>(7) 生物と環境</p> <p>㊦ 地域の自然災害</p> <p>地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。</p> <p>イ 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。</p>	<p>限にくい止める方法を考察させるような学習が考えられる。その際、学習の成果を発表したり話し合ったりする機会を設けることも考えられる。</p> <p>○ 地域の自然災害を調べる際には、図書館、博物館、科学館、ジオパークなどを利用したり、空中写真や衛星画像、情報通信ネットワークを通して得られる多様な情報を活用したりして、時間的・空間的な見方から捉えさせ、自然災害と人間との関わり方についての認識を深めさせることが考えられる。</p> <p>※ アに示す知識及び技能とイに示す思考力、判断力、表現力等とを相互に関連させながら、3年間を通じて科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指すものとする。</p>	
保健体育科	<p>〔保健分野〕</p> <p>(3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。</p> <p>(7) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。</p> <p>(7) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。</p> <p>(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。</p> <p>イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</p> <p>(4) 健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 健康と環境について理解を深めること。</p> <p>(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。</p>	<p>○ 人的要因としては、人間の心身の状態や行動の仕方について、環境要因としては、生活環境における施設・設備の状態や気象条件などについて理解できるようにする。</p> <p>○ 自然災害による傷害は、例えば、地震が発生した場合に家屋の倒壊や家具の落下、転倒などによる危険が原因となって生じること、また、地震に伴って発生する、津波、土砂崩れ、地割れ、火災などの二次災害によっても生じることを理解できるようにする。</p> <p>○ 自然災害による傷害の防止には、日頃から災害時の安全の確保に備えておくこと、緊急地震速報を含む災害情報を正確に把握すること、地震などが発生した時や発生した後、周囲の状況を的確に判断し、自他の安全を確保するために冷静かつ迅速に行動する必要があることを理解できるようにする。</p> <p>○ 地域の実情に応じて、気象災害や火山災害などについても触れるようにする。</p> <p>※ (3)のアの(エ)については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取り扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。</p> <p>○ 人間の生活に伴って生じたし尿やごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことを理解できるようにする。その際、ごみの減量や分別などの個人の取組が、自然環境の汚染を防ぎ、廃棄物の衛生的管理につながることに触れるようにする。また、災害による衛生環境の悪化を取り上げ、公共機関の情報を活用した個人の取組が、自他の健康のための衛生的管理につながるこ</p>	<p>中学校 第4章</p> <p>1 「一人一人が災害に備える」</p> <p>2 「自分を守る」</p> <p>3 「様々な自然災害に備える」</p> <p>4 「家庭でできる災害への備え」</p> <p>5 「災害心理について学ぼう」</p> <p>6 「知っておきたい心肺蘇生の方法とAEDの使用」</p> <p>7 「心の健康を守るために」</p>

	と。 イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。	とも適宜触れるようにする。	
技術・家庭科	〔技術分野〕 A 材料と加工の技術 (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。 (2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。 B 生物育成の技術 (3) これからの社会の発展と生物育成の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。 C エネルギー変換の技術 (2) 生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活	とにも適宜触れるようにする。 ※ Aの(1)のイでは、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目し、技術が最適化されてきたことに気付かせること。 ○ 学習活動としては、例えば、(中略)現代の住宅や高層建築物における耐震・制震・免震構造や防災の技術について、それが用いられた製品を観察したり、開発の経緯などを調べたりすることを通して、製品や構造物の目的に合わせて材料を改良したり、材料の形状や材料同士の構造の組み合わせを変えたりするなどの、開発者が設計に込めた意図を読み取らせることが考えられる。 ※ Aの(2)のイでは、各内容の(1)のイで気付かせた見方・考え方により問題を見いだして課題を設定し、自分なりの解決策を構想させること。 ○ 学習活動としては、例えば、家庭生活や学校生活における材料に関わる身近な不便さについて考えたり、既存の製品の改善の余地を考えたり、自然環境の保全や防災などに関わる社会的な問題について考えたりして、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題を見だし、必要となる機能をもった製品の設計・製作や既存の製品の強度の向上などの課題を設定し、その解決に取り組ませることが考えられる。 ※ Bの(3)については、技術が生活の向上や産業の継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても扱うものとする。 ○ この学習では、長い年月をかけて改良・工夫されてきた伝統的な技術やバイオテクノロジー等の先端技術が、食料や燃料の効率的・安定的な供給や安全性の向上、医療、芸術の発展などに寄与していること、水田や森林は二酸化炭素を吸収したり洪水を防止したりするなど、農林水産業や海洋産業がもつ多面的な機能が環境の保全や防災に貢献していることなど、生物育成の技術が生活の向上や産業の創造、継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても指導する。 ※ Cの(2)のイでは、各内容の(1)のイで気付かせた見方・考え方により問題を見いだして課	中学校 第4章 1 「一人一人が災害に備える」

<p>動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>D 情報の技術</p> <p>(3) 生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>イ 問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。</p> <p>〔家庭分野〕</p> <p>A 家庭・家庭生活</p> <p>(3) 家族・家庭や地域との関わり</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。</p> <p>イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。</p> <p>B 衣食住の生活</p> <p>(6) 住居の機能と安全な住まい方</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。</p> <p>イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。</p>	<p>題を設定し、自分なりの解決策を構想させること。</p> <p>○ 学習活動としては、例えば、家庭生活や学校生活におけるエネルギーの利用に関わる身近な不便さについて考えたり、既存の電気製品や機械製品の改善の余地を考えたり、自然環境の保全や防災等に関わる社会的な問題について考えたりして、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題を見だし、必要となる機能をもった製品の設計・製作や既存の製品への付加的な機能の追加などの課題を設定し、その解決に取り組みせることが考えられる。</p> <p>※ Dの(3)のイでは、各内容の(1)のイで気付かせた見方・考え方により問題を見いだして課題を設定し、自分なりの解決策を構想させること。</p> <p>○ 計測・制御のプログラミングによる問題を解決する学習活動としては、例えば、(中略)自然環境の保全や防災等に関わる社会的な問題について考えたりして、利便性、環境負荷、安全性などに関する問題を見だし、必要な機能をもつ計測・制御システムの設計・製作などの課題を設定し、その解決に取り組みせることが考えられる。</p> <p>※ Aの(3)のイについては、地域の活動や行事などを取り上げたり、他教科等における学習との関連を図ったりするよう配慮すること。</p> <p>○ 高齢者など地域の人々と関わり協働する方法については、地域との連携を図り、地域の祭りなどの行事や、清掃、防災訓練等の活動を取り上げて、中学生の自分が、地域の人々と協働するための方法を検討する活動などが考えられる。</p> <p>※ Bの(6)のア及びイについては、内容の「A 家族・家庭生活」の(2) (幼児の生活と家族)及び(3) (家族・家庭や地域との関わり)との関連を図ること。さらに、アの(イ)及びイについては、自然災害に備えた住空間の整え方についても扱うこと。</p> <p>○ 自然災害については、地域の実態に応じて過去の災害の例を取り上げることなどが考えられる。例えば、地震の場合は、家具の転</p>	<p>中学校 第5章 2「地域の一員として」</p> <p>第4章 4「家庭でできる災害への備え」</p>
--	---	---

		<p>倒・落下・移動などの危険を予測し、危険な箇所を見付け出すことができるようにする。</p> <p>その上で、家族が怪我をしたり、避難の妨げとなったり、二次災害としての火災が発生したりしないよう、家具の置き方や家具を倒れにくくする方法などについて理解できるようにする。</p> <p>○ 自然災害への備えについては、各家庭における危険箇所を確認したり、災害時の行動マニュアルを作成したりする活動などが考えられる。</p>	
特別の教科 道徳	<p>A 主として自分自身に関すること [節度、節制] 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする事。</p> <p>D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事 [生命の尊さ] 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえない生命を尊重すること。</p> <p>[自然愛護] 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。</p>	<p>○ 改めて基本的な生活習慣や防災訓練、交通安全等の安全に関わる活動の意義について学ぶ機会を設けることが大切である。きまりある生活を通して自らの生き方を正し、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活の実現に努めることが、自分自身の将来を豊かにするものであることを自覚できるようにすることが何よりも重要である。</p> <p>○ 人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊さに気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。</p> <p>○ 教育活動全体の取組を通じて、自己肯定感や自己有用感の高まりから、生徒一人一人の自尊感情を高めることにもつながるような指導の工夫も大切である。</p> <p>○ 阪神・淡路大震災、東日本大震災などの災害の事実の理解から自然に対する人間の有限性を考えさせるなど、事実や事象の知的な理解を基にしながら、自然の中で生かされていることを謙虚に受け止める感性を高めることに留意する必要がある。</p>	<p>中学校 第1章 3「一步一步力強く」</p> <p>第2章 1「ともに育つ」</p> <p>第2章 2「約束」</p> <p>第5章 4「心に寄り添う」</p> <p>第2章 5「花と緑で人々に笑顔を」</p>
総合的な学習の時間	<p>3 各学校において定める目標及び内容の取扱い各学校において定める目標及び内容の設定に当たっては、次の事項に配慮するものとする。</p> <p>(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。</p>	<p>○ 地域や学校の特色に応じた課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など、各地域や各学校に固有な諸課題のことである。 (中略) これらの特色に応じた課題は、よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、生徒が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していくことが望まれている。また、これらの課題についても正解や答えが一つに定まっているものではなく、従来の各教科等の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の探究課題として取り上げ、その解決を通して具体的な</p>	<p>中学校 第2章 3「勇気と希望を持って」 6「絆を力に」</p> <p>第4章 4「家庭のできる災害への備え」</p> <p>第5章 1「心を満たす食べ物を届ける」</p> <p>第5章</p>

		<p>資質・能力を育成していくことには大きな意義がある。</p> <p>〈探究課題の設定例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災のための安全な町づくりとその取組 	2「地域の一員として」
特別活動	<p>〔学級活動〕</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全</p> <p>エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成</p> <p>節度ある生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。</p> <p>〔生徒会活動〕</p> <p>(3) ボランティア活動などの社会参画</p> <p>地域や社会の課題を見だし、具体的な対策を考え、実践し、地域や社会に参画できるようにすること。</p> <p>〔学校行事〕</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事</p> <p>心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。</p>	<p>○ 事故の発生状況や危険箇所の調査結果をもとにした話し合い、「ひやり、はっとした」といった体験に基づく感想や発表、安全マップの作成、実技を通じた学習、ロールプレイングなど様々な方法による活動が考えられる。防災に関しては地域の地理、自然の特性など地域に関して教科等横断的に学ぶ中でその意識を高めていくこと、安全に関しては、日常生活に潜む様々な危険を予測したり、問題解決の方法を話し合ったりすることで、安全に保つために必要な事柄への理解を深める活動が考えられる。</p> <p>○ 中学生の発達の段階から、生徒の関心が広く学校外の事象に向けられるようになることは望ましいことであり、そうした活動を通して生徒の自己有用感の醸成や学習意欲の向上が期待でき、生徒会活動がより充実したものとなることにもつながる。</p> <p>○ 生徒会活動は、地域の行事への参加や生徒会の呼び掛けによるボランティア活動や地域の課題解決に関わる活動として、例えば地域の福祉施設や社会教育施設等での様々なボランティア活動や、有意義な社会的活動への参加・協力（地域の文化・スポーツ行事、防災や防犯、交通安全など）、幼児や児童、高齢者との交流、障害のある人々などとの交流や共同学習など、地域や学校の実態、生徒の関心などに応じて様々な活動が考えられる。</p> <p>○ 具体的な活動の工夫としては、地域活性化や防災、教育・福祉、環境の保全・保護など地域が抱えている課題解決に向けた発表会やポスターセッション、パネルディスカッションなどを行うなどの活動が挙げられる。</p> <p>○ 事故や災害から自他の安全を守ることの意義などの指導について十分配慮すること。</p> <p>○ 自然災害や犯罪などの非常事態に際し、沈着、冷静、迅速、的確に判断して対処する能力を養い、自他の安全を確保することのできる能力を身に付けること。</p>	<p>中学校</p> <p>第1章</p> <p>1「東北地方太平洋沖地震発生」</p> <p>2「復興に駆ける」</p> <p>第2章</p> <p>4「助け合うってすばらしい」</p> <p>第5章</p> <p>3「1.17 から3.11へ」</p> <p>5「がんばれ日本！世界は日本と共にある」</p> <p>第4章</p> <p>2「自分を守る」</p> <p>5「災害心理について学ぼう」</p>

「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」の見学プランについて

R5.1 まちづくり政策局 防災環境都市推進室

<1時間>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	校舎前	5分間	・受入れ、施設概要説明 ・津波が直撃した校舎東側外壁	・雨天時は校舎内で説明。
2	1F 保健室・1年1組教室・ 2年1組教室	5分間	・津波により破損した教室 ・ガレキに埋もれた被災直後の校舎内写真	・津波により、1Fは完全に水没
3	2F 廊下	5分間	・津波により倒壊したベランダ壁 ・壁や書棚に残る津波の浸水跡	・津波は2Fの床上約40cmまで浸水
4	4F 廊下	5分間	・津波到達時刻で止まった体育館の時計	・震災数年前まで避難場所だった体育館の説明
5	4F 3.11荒浜の記憶 (音楽室)	20分間	・荒浜小への避難から津波襲来、救助までの状況を当時の教員などの証言に基づき振り返る映像(約17分間)	・当施設のメインコンテンツであり、是非ご覧いただきたい映像(映像視聴用に40席)
6	4F 明日への備え (まつかぜ学級教室)	10分間	・災害への備えと発災時の対応を学べる壁面グラフィックやキューブ型展示 ・被災当日の教室での避難状況再現 ・仙台市の津波対策や津波発生のメカニズム	・アニメーション「明日への備え」(約3分間) ・黒板には避難時の班編成の跡が残っている
7	4F 在りし日の荒浜 (6年1組教室)	5分間	・震災前の荒浜の街並みを再現した模型 ・かつての荒浜の暮らしや明治6年開校の荒浜小の歩みを紹介したパネル・映像	・津波で一瞬にして失われた街の記憶を伝える場所
8	屋上	3分間	・海や貞山堀との距離感 ・荒浜地区全体や周囲の現状	・強風に注意が必要
9	校舎前	2分間	・質問受け付け ・挨拶	

※ご見学にあたっては、あらかじめ下記までご連絡の上、日程をご調整ください。

※施設スタッフ(本市会計年度任用職員)による館内のご案内をご利用いただけます(無料)。

※ご案内に際しては、クラス毎またはバス毎など、おおむね40人までのグループに分けてご案内いたします。

※同時間帯にご案内できるのは3グループまでとなります。120人を超える団体の場合、時間差でのご来館などにより対応できる場合がございますので、ご相談ください。

→荒井駅の「せんだい3.11メモリアル交流館」(車で約10分)の見学や、荒浜周辺(モニュメント・観音像・住宅基礎遺構)の散策を組み合わせることなどが考えられます。

※屋上・4Fから降りた後、校舎の裏側を事務所側へ抜けるコースをとると、給食室の中や体育館跡地も見学できます。

※見学時間は1時間以上が望ましいですが、ご都合にあわせ見学コースの調整も可能ですのでご相談ください。

※見学時間の他、トイレ休憩の時間(5~10分)を考慮した行程をご検討ください。

開館時間

9:30~16:00 (7月・8月は9:30~17:00) ※入館無料

休館日

月曜日および第4木曜日(祝日を除く)
年末年始

問合せ・予約

震災遺構 仙台市立荒浜小学校 管理事務所
TEL 022-355-8517

※館内案内のため不在となる時間帯がありますので、予めご了承ください。

「せんだい3.11メモリアル交流館」の見学プランについて

R5.1 まちづくり政策局 防災環境都市推進室

<1時間コース(通常)>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	1F 交流スペース	20分間	・受入れ、施設概要説明 ・地形と津波浸水域の関係を確認できる沿岸部立体地図 ・定点で震災前後を比較したスライドショー	・交流スペースを使った別展示を行っている場合も有り
2	1～2F 踊り場 2F 廊下	5分間	・「わたしたちの3.11」 ・在仙のイラストレーター・佐藤ジュンコ氏による沿岸部イラストマップ	・3.11への想いを短冊に書き掲示してもらったり、沿岸地域の思い出等を付箋に記しマップに貼り付ける参加型展示
3	2F 展示室 (常設展示/企画展示)	25分間	・常設展示では、本市の被災状況や復興状況、過去の災害などを時系列で紹介 ・震災の記憶や沿岸部の暮らしなどを伝える企画展示は数カ月ごとに入れ替え	・荒浜で被災した職員の話を聞くことも可能(該当職員の勤務状況による) ・企画展の入れ替え時期は、見学できない場合も有り
4	屋上	5分間	・荒井駅周辺の状況 ・東西線の西端(八木山動物公園駅)	・雨天時は省略
5	1F 交流スペース	5分間	・質問受け付け ・挨拶	

<40分間コース(最短)>

順路	見学場所	所要時間	主な見学ポイント等	備考
1	1F 交流スペース	15分間	・受入れ、施設概要説明 ・地形と津波浸水域の関係を確認できる沿岸部立体地図 ・定点で震災前後を比較したスライドショー	・交流スペースを使った別展示を行っている場合も有り
2	2F 廊下・展示室 (常設展示/企画展示)	20分間	・在仙のイラストレーター・佐藤ジュンコ氏による沿岸部イラストマップ ・常設展示では、本市の被災状況や復興状況、過去の災害などを時系列で紹介 ・震災の記憶や沿岸部の暮らしなどを伝える企画展示は数カ月ごとに入れ替え	・荒浜で被災した職員の話を聞くことも可能(該当職員の勤務状況による) ・企画展の入れ替え時期は、見学できない場合も有り
3	1F 交流スペース	5分間	・質問受け付け ・挨拶	

※ご見学にあたっては、あらかじめ下記までご連絡の上、日程をご調整ください。

※施設スタッフ(運営受託者の(公財)仙台市市民文化事業団)による館内のご案内をご利用いただけます(無料)。

※ご案内に際しては、クラス毎またはバス毎など、おおむね30人までのグループに分けてご案内いたします。

※同時間帯にご案内できるのは2グループまでとなります。60人を超える団体の場合、時間差でのご来館などにより対応できる場合がございますので、ご相談ください。

→「震災遺構仙台市立荒浜小学校」(車で約10分)の見学や、荒浜周辺(モニュメント・観音像・住宅基礎遺構)の散策を組み合わせることなどが考えられます。

※2Fスタジオ(約40人収容)や屋上を昼食場所としてご利用いただけます。

(2Fスタジオは他団体等の利用状況により使えない場合がありますのでご了承ください。)

※見学時間の他、トイレ休憩の時間(5～10分)を考慮した行程をご検討ください。

開館時間	10:00～17:00 ※入館無料
休館日	月曜日(祝日の場合はその翌日) 祝休日の翌日(土・日曜日、祝日を除く) 年末年始
問合せ・予約	せんだい3.11メモリアル交流館 TEL 022-390-9022

「震災遺構仙台市立荒浜小学校」周辺地図(見学・昼食ポイント)



区分	施設等名称	所在地(荒浜小からの所要時間)	問合せ先	昼食に利用可能な場所 ※要予約 (見学と併せてご利用ください)
見学 /昼食	①せんだい3.11 メモリアル交流館	若林区荒井字杵形85-4 荒井駅舎内 (車で約10分)	022-390-9022	2Fスタジオ(40人、無料) 屋上庭園(約120人、無料)
昼食	②七郷市民センター	若林区荒井字堀添65-5 (車で約10分)	022-288-8700	第1・第2研修室(最大100人、有料) ※団体登録していれば100%減免
見学 /昼食	③荒井車両基地	若林区荒井字矢取東46-1 (車で約10分)	022-290-6381 (交通局荒井管理事務所)	会議室(約80人、無料)
見学 /昼食	④農業園芸センター	若林区荒井字切新田13-1 (車で7~8分)	022-288-0811	彫刻芝生広場(100人以上、無料) 研修室1・2(最大140人、有料)
見学	⑤笹屋敷津波避難ビル	若林区荒井字笹屋敷157-6 (車で約3分)	022-214-3047 (防災計画課)	-
見学 /昼食	⑥海岸公園センターハウス	若林区荒浜字北官林30 (車で約5分)	022-288-4021	ホール、テラス(50~100人、無料)
見学	⑦地域モニュメント	若林区荒浜字南丁9 (徒歩約5分)	-	-
見学	⑧モニュメント ⑨荒浜祈りの塔	若林 (徒歩約10分)	-	-
見学	⑩住宅基礎遺構 (2019年夏~秋頃 公開予定)	若林区荒浜字中丁 (徒歩約10分)	022-355-8517 (荒浜小) 022-214-1117 (防災環境都市推進室)	-
見学 /昼食	⑪海岸公園冒険広場	若林区井戸字開発100-1 (徒歩約10分) 若林区荒浜字中丁25	289-6232	冒険遊び場~大型遊具広場(100人以上、無料)

8 防災教育に関する資料 リンク集

ア 宮城県・仙台市

サイト名等	主な掲載内容	URL
仙台市教育センター	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台版防災教育副読本 ・復興プロジェクト 	https://www.sendai-c.ed.jp/
仙台市 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市の防災, 災害対策一覧 ・災害に備えて ・避難所など 	https://www.city.sendai.jp/kurashi/enzen/saigaitaisaku/index.html
仙台防災ナビ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害別ハザードマップ ・マイタイムライン 	https://www.sendaibousai.com/
仙台市震災メモリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・せんだい3.11メモリアル交流館 ・震災遺構 仙台市立荒浜小学校 	https://city.sendai311-memorial.jp/
防災環境都市・仙台	<ul style="list-style-type: none"> ・「杜の都」は「守りの都」 	https://sendai-resilience.jp/
宮城県教育委員会 学校安全・防災トップページ	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全, 防災等 ・みやぎ学校防災ポータルサイト「みやぼう」 	https://www.pref.miyagi.jp/site/gakkou-anzen-bousai/index.html
東北大学 防災教育国際協働センター	<ul style="list-style-type: none"> ・復興・防災マップ作り 	http://drredu-collabo.sakura.ne.jp/
宮城教育大学 防災教育研修機構	<ul style="list-style-type: none"> ・災害遺構活用支援・防災教育実践ポータル ・「みんなで作る防災教育」 	https://bousai-miyagi.sub.jp/bousai-kyoiku/
宮城教育大学 国土交通省東北地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・動画で学ぶみんなの防災 	https://mue-bousai.jp/

イ 行政機関等（国）

サイト名等	主な掲載内容	URL
文部科学省 「文部科学省×学校安全」	<ul style="list-style-type: none"> ・災害安全を含む学校安全ポータルサイト ・各都道府県が作成した指導資料等を掲載 	https://anzenkyouiku.mext.go.jp/
国土交通省 「防災教育ポータル」	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の取組 ・学年別, 分野別の事例 教材集 ・授業の参考資料 伝わりやすい写真やイラスト ・防災教育の進め方の手引き 	https://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/index.html
国土交通省 「津波防災のために」	<ul style="list-style-type: none"> ・津波の発生、被害、津波対策、津波情報等の津波に関する情報 	https://www.mlit.go.jp/river/kaigan/main/kaigandukuri/tsunambousai/index.html
国土交通省 国土地理院	<ul style="list-style-type: none"> ・「地理教育の道具箱」 地図で学ぶ防災ポータル ・地理教育支援コンテンツ（小・中・高） 	https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/index.html
国土交通省 気象庁 「知識・解説」	<ul style="list-style-type: none"> ・気象情報、自然災害等の解説 ・各種教材へのリンク ・eラーニング「大雨のときにどう逃げる？」 ・気象庁ワークショップ「大雨、その時どうする？」 	https://www.jma.go.jp/jma/menu/menuknowledge.html
国土交通省 東北地方 整備局「震災伝承館」	<ul style="list-style-type: none"> ・二次利用可能な東日本大震災の写真・動画のライブラリ 	https://www.infra-archive311.jp/

総務省 消防庁 「防災・危機管理 eカレッジ」	・「こどもコース」「一般コース」により、防災等に関する内容を学ぶ	https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/
内閣府 「TEAM 防災ジャパン」	・防災ボランティア情報 ・防災資料室（動画、リーフレット等） ・防災教育コンテンツ（指導案、ワークシート、静止画、動画、イラスト等）	https://bosaijapan.jp/
首相官邸 「防災の手引～いろんな災害を知って備えよう～」	・各種災害に関する情報 （「大規模自然災害に対する対応、災害に対する備えなど）	https://www.kantei.go.jp/jp/headline/bousai/index.html

ウ その他

サイト名等	主な掲載内容	URL
一般社団法人 防災教育普及協会 「教材・事例紹介」	・防災教育チャレンジプラン（リンク） ・防災教育教材・ツール （防災ゲーム、ワークショップ教材）の紹介	https://www.bousai-edu.jp/info/category/case/
一般社団法人防災教育普及協会「防災教育チャレンジプラン」	・防災教育チャレンジプラン応募 ・防災教育事例の検索 ・防災教育に役立つリンク集	http://www.bosai-study.net/top.html
政府地震調査 研究推進本部 「地震本部」	・自治体向け（防災担当者） ・教育機関（幼・小・中・高生向け）教材や資料 ・キッズ向けページ「地震キッズ探検隊」	https://www.jishin.go.jp/
EDUPEDIA（NPO 法人日本教育再興連盟）	・各教科等の授業実践事例の検索サイト （キーワード一覧から「防災教育」を検索）	https://edupedia.jp/
NHK 災害列島 命を守る情報サイト	・災害リスク、災害の備え（災害もしもブック、災害もしもマニュアル、防災グッズリスト） ・防災に関するQ&A ・動画で学ぶ（災害知識の映像教材）	https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/basic-knowledge/
日本赤十字社 青少年赤十字 「防災教育」	・教材「ぼうさいまがいがいさがし きけんはっけん！」（幼稚園・保育所向け） ・教材「まもるいのち ひろめるぼうさい」（小・中・高校生向け）	https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/youth/prevention/
公益社団法人 中越防災安全推進機構 「防災教育 switch」	・新潟県防災教育プログラム ・実践事例検索	http://furusato-bousai.net/
人と防災未来センター	・阪神淡路大震災をきっかけとした、地震と災害に対する防災と減災についてわかりやすく発信	https://www.dri.ne.jp/
静岡県 地震防災センター	・「災害図上訓練 DIG」 地図を使って防災対策を検討する訓練等	https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/bosaicenter/index.html
特定非営利活動法人 日本トイレ研究所 「災害時のトイレ対策」	・災害用トイレガイド ・災害時のトイレ問題と、携帯トイレの使い方の動画資料	https://www.toilet.or.jp/diasaster/

「仙台版防災教育実践ガイド」(令和5年3月改訂版)

<アドバイザー>

東北大学災害科学国際研究所 教授 佐藤 健
東北工業大学 教授 小川 和久

<協力>

防災環境都市推進室 主任 片桐 充博
教育センター 主任指導主事 日下 尚子
指導主事 鈴木 寿幸

<事務局>

教育指導課 課長 高橋 和之
主幹兼教育課程係長 田中 元昭
主任指導主事 芳賀 亨
主任指導主事 大内 司朗
主任指導主事 三浦 洋太
主任指導主事 黒川 利香
主任指導主事 星 隆一
主任指導主事 西 礼一郎
指導主事 猪又 麻衣子
指導主事 小原 久仁子
指導主事 笹 敦史

【参考文献等】

- 小学校学習指導要領(平成29年告示) (文部科学省)
- 中学校学習指導要領(平成29年告示) (文部科学省)
- 仙台版防災教育副読本「3.11から未来へ」 (仙台市教育センター)

平成29年3月	初版発行	仙台市教育局学校教育部教育指導課
平成31年4月	第2版（改訂版）発行	仙台市教育局学校教育部教育指導課
令和5年3月	第3版（改訂版）発行	仙台市教育局学校教育部教育指導課